

【3P1B201】ピアノ		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋 : 音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	基礎的な音楽知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	基礎テクニックを修得し、演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	エチュード、バロック、古典派の作品を学びながら演奏の基本を確認します。音楽的知識を修得し、演奏技術と表現を身に付けていきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	実技試験は古典派の作品の演奏を最終試験(前期定期試験)で行います。中間発表(中間試験)はスケール・アルペジオ、エチュードの演奏です。フィードバックとして中間発表(中間試験)、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmail など)						
アクティブ・ラーニングの活用	発表						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(または手持ちのもの)(1,430円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ:インヴェンション・シンフォニア』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明: 今後の進め方 選曲 各々が準備してきた楽曲を演奏 【課題(準備・復習)】 初回のレッスンで演奏する曲を準備しておく レッスンでのアドバイスを踏まえ復習し、次回のレッスンの準備をする(2~3h)						
2~7	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 ~中間発表(中間試験)曲を中心に~ ・正確な譜読み ・テクニックの修得 ・音楽用語の理解 ・曲想 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)						
8	中間発表(中間試験): 調号1つまでのスケール・アルペジオ、練習曲 ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 ~試験曲を中心に~ 【課題(準備・復習)】 中間発表(中間試験)に向けて弾き込む レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(2~3h)						
9~15	ハノン、練習曲、バッハ、古典派の作品 ~試験曲を中心に~ ・正確な譜読み ・テクニックの向上 ・音楽用語の理解 ・曲想 ・音色研究 ・豊かな表現力 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)						
時間外での学修	レッスン時に次回までの課題が提示されますので、授業外で毎日怠らずに練習し、毎回のレッスンでレベルアップできるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 30~45時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスン内容を楽譜やノート等に書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。						

【3P1S202】ピアノ		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋 : 音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	前期に引き続き、練習曲、バッハの作品に取り組みながら、ロマン派の作品も学びます。前期に学んだ基礎テクニックを更に発展させ、演奏技術、表現力を高めます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	実技試験はロマン派の作品の演奏を最終試験(後期定期試験)で行います。中間発表(中間試験)はスケール・アルペジオ、バッハの演奏です。フィードバックとして中間発表(中間試験)、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)						
アクティブ・ラーニングの活用	発表						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社、または手持ちのもの(1,430円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ:インヴェンション・シンフォニア』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1~7	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品 ~中間発表(中間試験)曲を中心に~ ・譜読みの確認 ・テクニックの向上 ・音楽用語の確認 ・曲想 ・音色研究 ・音楽表現 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)						
8	中間発表(中間試験):調号2つ・3つのスケール・アルペジオ、バッハ インヴェンション ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品 ~試験曲を中心に~ 【課題(準備・復習)】 中間発表(中間試験)に向けて弾き込む レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(2~3h)						
9~15	ハノン、練習曲、バッハ、ロマン派の作品 ~試験曲を中心に~ ・正確な譜読み ・テクニックの向上 ・音楽用語の理解 ・曲想 ・音色研究 ・豊かな表現力 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)						
時間外での学修	レッスン時に提示される各々の課題を授業外で毎日怠らず練習し、毎回のレッスンが質の高いレッスンとなるよう取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:30~45時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスンでアドバイスを受けたことを自分の演奏に活かし、演奏力の向上に努めてください。オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。						

【3P1B205】ピアノキャリア実践		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋: 音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人指導を行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	・音程、和音、調性、コードネーム、コード進行などの基礎知識を理解することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	・適切な思考力・判断力を養うことができる。 ・豊かな演奏表現をすることができる。					
	技能	・変奏・モチーフ課題などの即興演奏、初見演奏、メロディ&ベース・コード&ベースの伴奏づけなどにおいて、適切な演奏をすることができる。 ・高度な演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	ヤマハ・カワイピアノ演奏グレードの学修や、ピアノ演奏の更なる追求など、個々の希望進路に合わせた内容を学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験/課題		20	20	20	-	60
	受講態度		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	実技試験は最終試験で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)						
アクティブラーニングの活用	グループワーク・発表等						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明 各種グレードについての説明 今後の進め方を話し合う グレード: 音名、音程、調、調号、和音記号、コードネームについて ピアノ演奏: 正確な譜読み 【課題(準備・復習)】 これまでに学んだことのある楽典を復習し、音名、音程、調性、和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解する(2h~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)						
2~15	ヤマハピアノ演奏グレード ・即興演奏(変奏課題・モチーフ課題) ・初見演奏 課題の確認 【課題(準備・復習)】 学修した内容を復習し、即興演奏について理解し、初見演奏ができるようになる(各2~3h)						
2~15	カワイピアノ演奏グレード: 伴奏づけ ・固有和音 . . . ・固有和音 . . . ・借用和音: ドッペルドミナント ・その他の借用和音: 副属七の和音 ・まとめ、受験対策 課題の確認 【課題(準備・復習)】 学修した内容を復習し、伴奏づけについて理解する(各2~3h)						
2~15	ピアノ演奏 ・テクニックの向上 ・曲想 ・バランスづくり ・音色研究 ・豊かな表現 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)						
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 30~45時間】						
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【3P1S206】ピアノキャリア実践		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋: 音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人指導を行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	・和音、調性、コードネーム、コード進行などの基礎知識を理解することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	・適切な思考力・判断力を養うことができる。 ・豊かな演奏表現をすることができる。					
	技能	・変奏・モチーフ課題などの即興演奏、初見演奏、メロディ&ベース・コード&ベースの伴奏づけなどにおいて、適切な演奏をすることができる。 ・高度な演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	ヤマハ・カワイピアノ演奏グレードの学修や、ピアノ演奏の更なる追求など、個々の希望進路に合わせた内容を学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験/課題		20	20	20	-	60
	受講態度		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	実技試験は最終試験で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)						
アクティブラーニングの活用	グループワーク・発表等						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1~15	ヤマハピアノ演奏グレード ・即興演奏(変奏課題・モチーフ課題) ・初見演奏 ・まとめ、受験対策 課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、即興演奏について理解し、初見演奏ができるようにする(各2~3h)						
1~15	カワイピアノ演奏グレード: 伴奏づけ ・転回形によるベース(1) : の第1転回形 ・転回形によるベース(2) : の第2転回形 - 、 の第2転回形 (7)の第1転回形 ・転回形によるベース(3) の第1転回形、 : 7の和音の第1・2・3転回形 ・固有和音 ・借用和音(1) ドブルドミナント、 の第1転回形 ・借用和音(2) マイナー・ マイナーの第2転回形 ・借用和音(3) 上の 7 ・借用和音(4) 上の 7、ドブルドミナントの第1転回形 ・借用和音(5) 上の 7、ドブルドミナントの第1転回形 ・借用和音(6) 上の 7 ・復習 ・ティミニッシュ ・転調 ・まとめ、受験対策 課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、伴奏づけについて理解する(各2~3h)						
1~15	ピアノ演奏 ・テクニックの向上 ・曲想 ・バランスづくり ・音色研究 ・豊かな表現 など 課題の確認 【課題(復習)】 レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)						
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 30~45時間】						
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【3P1B209】ピアノ応用実践		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋: 音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人指導を行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	・音程、音階、和音、コードネーム、コード進行、調性、音楽用語、楽語などの基礎知識を理解することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	・適切な思考力・判断力を養うことができる。 ・豊かな演奏表現をすることができる。					
	技能	・メロディー視唱、ひきうたい、伴奏づけ、移調奏などにおいて、音楽を楽譜からの確にとらえ、演奏することができる。 ・音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。 ・より高度な演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	ヤマハ指導グレード、カワイピアノ指導グレードの学修や、ピアノ演奏の更なる追求など、個々の希望に合わせた内容を学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験 / 実技試験 / 課題		20	20	20	-	60
	受講態度		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	筆記試験 / 実技試験は最終試験で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験 / 実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援 (Gmail など)						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク・発表等						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明 今後の進め方を話し合う グレード：音名、音程、調、調号、和音記号、コードネームについて ピアノ演奏：正確な譜読み [課題(準備・復習)] これまでに学んだことのある楽典を復習し、音名、音程、調性、和音記号、コードネームなどの基礎知識を理解する(2~3h) レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(2~3h)						
2~15	ヤマハ指導グレード ・メロディー視唱 ・ひきうたい ・伴奏づけ ・移調奏 ・楽典 ・コード進行法 ・聴音 課題の確認 [課題(準備・復習)] 学修した内容を復習し、各実技・筆記科目について理解する(各2~3h)						
2~15	カワイピアノ指導グレード ・調 ・音階 ・和音 ・コードネーム(3和音・4和音) ・音楽用語 ・楽語 ・聴音 課題の確認 [課題(準備・復習)] 学修した内容を復習し、各筆記科目について理解する(各2~3h)						
2~15	ピアノ演奏 ・テクニックの向上 ・曲想 ・バランスづくり ・音色研究 ・豊かな表現 など 課題の確認 [課題(準備・復習)] レッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各2~3h)						
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】						

受講学生への
メッセージ

積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。
オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。

【3P1S210】ピアノ応用実践		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織・三ツ橋 義晴						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	横井 : 音楽教室講師・10年 三ツ橋: 音楽教室講師・9年						
授業方法	演習を中心とした個人指導を行います。音楽的知識の理解や技術の修得に向け、小グループでの活動や発表も含めながら授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	・基礎的知識をはじめ、音楽用語、楽曲の知識、コードネーム、調判定・移調、楽曲分析などの知識を理解することができる。 ・幅広く音楽的知識を修得し、楽曲理解に繋げることができる。					
	思考・判断・表現	・適切な思考力・判断力を養うことができる。 ・豊かな演奏表現をすることができる。					
	技能	・メロディー視唱、ひきうたい、伴奏づけ、移調奏などにおいて、音楽を楽譜からの確にとらえ、演奏することができる。 ・音楽聴取能力と楽譜を正確に記述する能力を身に付けることができる。 ・より高度な演奏技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	ヤマハ指導グレード、カワイピアノ指導グレードの学修や、ピアノ演奏の更なる追求など、個々の希望に合わせた内容を学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験 / 実技試験 / 課題		20	20	20	-	60
	受講態度		10	10	10	10	40
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	筆記試験 / 実技試験は最終試験で行います。課題は個々に提示します。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(筆記試験 / 実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援 (Gmail など)						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク・発表等						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1~15	ヤマハ指導グレード ・メロディー視唱 ・ひきうたい ・伴奏づけ ・移調奏 ・楽典 ・コード進行法 ・聴音 課題の確認 【課題(準備・復習)】 学修した内容を復習し、各実技科目・筆記科目について理解する (各2~3h)						
1~15	カワイピアノ指導グレード ・曲種 ・楽曲の知識 ・コードネーム ・調判定 ・移調 ・楽曲分析 ・聴音 課題の確認 【課題(復習)】 学修した内容を復習し、各筆記科目について理解する (各2~3h)						
1~15	ピアノ演奏課題 ・テクニックの向上 ・音楽用語の理解 ・曲想 ・音色研究 ・豊かな表現力 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回の指導でのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする (各2~3h)						
時間外での学修	知識・技術の修得のためには毎日の積み重ねが大切です。授業外で必ず復習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】						
受講学生へのメッセージ	積極的に理解に努め、分からないことは質問するなどして必ず解決しましょう。 オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						

【302B201】電子オルガン		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽講師・35年						
授業方法	演奏を中心とした個人レッスンをを行います。発表を含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。					
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。					
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。					
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	電子オルガンにおける様々な音楽ジャンルの演奏を経験・追究し、トータルで安定した演奏基盤を身につけます。具体的には、前半で得意な音楽ジャンルのレパートリー演奏を追究し、後半ではその他様々なジャンルの演奏を広く経験し、多種なジャンルへの演奏対応力を身につけ、新たな得意ジャンルを探索します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作/レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		25	30	30	15	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだうちの2曲(得意ジャンル1曲/その他ジャンル1曲)の演奏発表で評価します。また、準備・課題は、毎週の練習の結果で評価します。フィードバックとして、試験後に、講評を行います。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)						
アクティブ・ラーニングの活用	発表						
課題に対するフィードバック	課題は次回以降の授業で確認し、コメントします。						
テキスト	これまで自身で取り組んだことのある得意ジャンルのレパートリーから2曲程度ピックアップし、第1週授業の際に楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。(この授業のために、新たに選曲し取り組んだ曲でも構いません。)その他に、個人の必要に応じて授業開始後テキストを案内する場合があります。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	これまでの演奏経験や現在の演奏レパートリーの確認/今後のレッスン内容の方向性を検討・決定〔課題(準備)〕決定した得意ジャンルの演奏曲を練習し、まず自身の力の範囲内で仕上げてくる(2~3h)						
2	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(1) 例.演奏全体へのアドバイス(リズムの感じ方など)〔課題(準備)〕全体的にアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
3	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(2) 例.鍵盤タッチ奏法〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所(例.鍵盤タッチ奏法)を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
4	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(3) 例.エクスペディションペダル奏法〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所(例.Exp.ペダル奏法)を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
5	得意ジャンルのレパートリーにおける演奏追究(4) 例.まとめのアドバイス〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所を全体を復習し、演奏に反映する(2~3h)						
6	その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目](1) 例.クラシック〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所(例.タッチ奏法)を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
7	その他ジャンルへの演奏取り組み[1曲目](2)〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所(例.Exp.ペダル奏法)を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
8	その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目](1) 例.Jazz〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所(例.リズム感)を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
9	その他ジャンルへの演奏取り組み[2曲目](2)〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所(例.タッチ奏法)を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
10	その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目](1) 例.ラテン〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所(例.リズム感)を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
11	その他ジャンルへの演奏取り組み[3曲目](2)〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所(例.タッチ奏法)を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
12	その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目](1) 例.フュージョン/ニューエイジミュージック〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所(例.2nd Exp.ペダル奏法)を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
13	その他ジャンルへの演奏取り組み[4曲目](2)〔課題(準備)〕アドバイスされた箇所(例.水平タッチ奏法)を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
14	得意ジャンルのレパートリー曲 演奏の仕上がり確認と最終アドバイス〔課題(準備)〕得意ジャンルのレパートリー曲について、演奏全体を仕上げる(2~3h)						
15	その他ジャンルからの選曲曲 演奏の仕上がり確認と最終アドバイス〔課題(準備)〕その他ジャンルからの選曲曲について、演奏全体を仕上げる(2~3h)						

時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 ・第6週～第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ曲の練習を継続しましょう。 ・第15週授業では、第6週～第13週で取り組んだその他ジャンルの演奏曲の中から、実技試験で演奏したい1曲を選曲して取り組みます。第13週授業を終えた段階で、取り組む曲を決定して練習しましょう。 <p>【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>皆さんが既に演奏しているレパートリーも、実はまだまだ奥の深いものかも知れません。この授業前半では、その奥深さを知り、一歩踏み込んだ演奏に取り組んでみましょう。また後半で、新たな得意ジャンルを開拓しましょう。</p> <p>[オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度</p>

【302S202】電子オルガン		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽講師・35年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。発表を含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	取り組む楽曲において、その曲の構成や、用いられている表現手法を理解できる。					
	思考・判断・表現	取り組む楽曲において、楽譜から読み取れる情報をもとに、適切に演奏に取り入れて表現することができる。					
	技能	取り組む楽曲に対して、自らのこだわりを持って演奏することができる。					
	関心・意欲・態度	各曲を演奏する上で生じる疑問点を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	電子オルガンの演奏力向上とともに、レパートリーの拡充に取り組みます。具体的には、前半で 自身で選曲した新規レパートリーの演奏に取り組み、後半では 与えられた課題曲の演奏に取り組みます。どちらの曲においても、細部にまでこだわった演奏を目指します。個人の演奏力や知識に応じて、その場で必要な楽器の操作/レジストレーション等の制作力もカバーしていきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	25	25	-	70
	準備・課題		5	5	5	-	15
	受講態度		-	-	-	15	15
合計(点)		25	30	30	15	100	
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲1曲/課題曲1曲の演奏発表で、準備・課題は、毎週の練習の成果で評価します。フィードバックとして、試験後に、講評を行います。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)						
アクティブ・ラーニングの活用	発表						
課題に対するフィードバック	課題は次回以降の授業で確認し、コメントします。						
テキスト	第1週授業の際に、前半で取り組む自由曲の候補曲(2曲程度)の楽譜・レジストデータなどを準備してきてください。その他に、個人の必要に応じて 授業開始後 テキストを案内する場合があります。						
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて 参考書・楽譜などを案内します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	前半で取り組む自由曲の候補曲を確認/今後のレッスン内容の方向性を検討~決定 〔課題(準備)〕決定した自由曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる(2~3h)						
2	自由曲における演奏追究(1) 曲の冒頭から1/3程度まで 〔課題(準備)〕曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
3	自由曲における演奏追究(2) 前回と同範囲 〔課題(準備)〕曲のつづき~2/3程度まで 仕上げてくる(2~3h)						
4	自由曲における演奏追究(3) 曲のつづき~2/3程度まで 〔課題(準備)〕曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
5	自由曲における演奏追究(4) 前回と同範囲 〔課題(準備)〕曲のつづき~最後まで 仕上げてくる(2~3h)						
6	自由曲における演奏追究(5) 曲全体 〔課題(準備)〕曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
7	自由曲における演奏追究(6) 前回と同範囲 〔課題(準備)〕後半で取り組む課題曲の練習を開始し、まず自身の力の範囲内で曲の冒頭から1/3程度まで仕上げてくる(2~3h)						
8	課題曲における演奏追究(1) 曲の冒頭から1/3程度まで 〔課題(準備)〕曲の冒頭から1/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
9	課題曲における演奏追究(2) 前回と同範囲 〔課題(準備)〕曲のつづき~2/3程度まで 仕上げてくる(2~3h)						
10	課題曲における演奏追究(3) 曲のつづき~2/3程度まで 〔課題(準備)〕曲の2/3程度までアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
11	課題曲における演奏追究(4) 前回と同範囲 〔課題(準備)〕曲のつづき~最後まで 仕上げてくる(2~3h)						
12	課題曲における演奏追究(5) 曲全体 〔課題(準備)〕曲全体のアドバイスされた箇所を練習し、演奏に反映する(2~3h)						
13	課題曲における演奏追究(6) 前回と同範囲 〔課題(準備)〕前半で取り組んだ自由曲を再度仕上げてくる(2~3h)						
14	自由曲演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス 〔課題(準備)〕自由曲の演奏全体を仕上げ、課題曲も仕上げてくる。(2~3h)						
15	課題曲演奏の仕上がりの確認と最終アドバイス 〔課題(準備)〕課題曲のアドバイスされた箇所を練習し、演奏全体を仕上げる(2~3h)						
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> 各回における[準備・課題]への取り組み状況を、その次の回にて確認します。 授業開始前に、この授業前半で取り組む自由曲の候補曲を2曲用意し、簡単に譜読みを済ませておいてください。 第8週~第13週の間も、第14週授業に向けて、前半で取り組んだ自由曲を練習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~45時間】						

受講学生への メッセージ	自分で選んだ曲と、与えられた課題曲という2つの対照的な演奏を、平等に取り組んでみましょう。いずれの楽曲においても深くこだわった練習をしていきます。魅力的な演奏に仕上げると同時に、皆さんのレパートリーを増強していきましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて 授業時間の前後5分程度
-----------------	--

【302B205】電子オルガンキャリア実践		音楽総合学科		1年前期		
		2単位	必修	演習	30時間	
教員	上園 弥生					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	指導グレード、エレクトーン演奏グレード5～3級試験官30年 音楽講師35年					
授業方法	演習を中心とした個人レッスンを行います。発表を含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。					
到達目標	知識・理解	様々なジャンルの音楽の特徴を理解できる				
	思考・判断・表現	聴いている人に伝わる演奏ができる				
	技能	演奏するジャンルにふさわしい編曲が出来、表現を伴って演奏できる				
	関心・意欲・態度	わからない事に対して、質問、研究する事ができる				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	ヤマハの演奏グレードの項目である、即興演奏A、即興演奏B、初見演奏について学びます。色々なジャンルの演奏スタイルを理解し、変奏の方法、伴奏形など、まとめ方を実習しながら勉強していきます。初見演奏のポイントを、理解し練習します。即興演奏を通じて、アレンジの技法などを学び、様々な場面において、対応できる力をつけます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	15	25	25	-	65
	筆記試験	5	5	5	-	15
	準備、課題	5	-	-	-	5
	受講態度	-	-	-	15	15
合計(点)	25	30	30	15	100	
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ課題の実習、筆記試験は、授業で取り組んだ内容で出題されます。準備、課題は、毎週の練習の成果で評価します。フィードバックとして、試験後に、講評を行います。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)					
アクティブ・ラーニングの活用	発表					
課題に対するフィードバック	課題は次回以降の授業で確認し、コメントします。					
テキスト	授業で提示します。資料を配布します。					
参考書・教材	授業開始後、必要に応じて紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス。スケールとカデンツについて確認 〔課題(準備)〕学んだ内容を復習する(2～3h)					
2	オルターネーティングベース 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解、復習し、実習する(2～3h)					
3	課題実習、コードパターンで練習 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解し、実習する(2～3h)					
4	カウンターメロディについて 〔課題(準備)〕学んだ内容を復習し、実習する(2～3h)					
5	課題実習、コードパターンで練習 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解し、実習する(2～3h)					
6	2ビート実習 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解し、実習する(2～3h)					
7	ラテンのリズム 〔課題(準備)〕学んだ内容を復習し、実習する(2～3h)					
8	ワルツ実習 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解し、実習する(2～3h)					
9	メロディ変奏(フェイク)について 〔課題(準備)〕学んだ内容を復習し、実習する(2～3h)					
10	ブロック奏について 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解し、実習する(2～3h)					
11	全体のまとめ方、構成、イントロ、エンディングについて 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解し、実習する(2～3h)					
12	即興A課題実習 試験に向けて、 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解し、実習する(2～3h)					
13	即興A課題実習 試験に向けて 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解し、実習する(2～3h)					
14	初見課題実習 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解し、実習する(2～3h)					
15	予見について 試験に向けて 〔課題(準備)〕学んだ内容を理解し、実習する(2～3h)					
時間外での学修	学習した事を毎日トレーニングしましょう。積極的に課題に取り組みましょう。(問題をたくさんやりましょう) 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】					
受講学生へのメッセージ	わからない事を、放置しないようにしましょう。(いつでもよいのできて下さい) オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。					

【302S206】電子オルガンキャリア実践		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	必修	演習	30時間	
教員	上園 弥生					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	指導グレード、エレクトーン演奏グレード5～3級試験官30年 音楽講師35年					
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。発表を含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。					
到達目標	知識・理解	様々なジャンルの音楽の特徴を理解している				
	思考・判断・表現	聴いている人に伝わる演奏ができる				
	技能	課題に対し、ふさわしいジャンルが選択できる。表情豊かな編曲演奏ができる。				
	関心・意欲・態度	わからない事に対して、質問、研究することができる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	音楽の総合的能力が要求される即興演奏の勉強をします。フィーリング、演奏テクニック、正しい音の使い方の三つの要素が三位一体となり、良い演奏ができるように導きます。要素の積み重ねだけでなく、音楽の流れの中でとらえられるように、努力しましょう。指導グレードの勉強もしていきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	15	25	25	-	65
	筆記試験	5	5	5	-	15
	準備、課題	5	-	-	-	5
	受講態度	-	-	-	15	15
合計(点)	25	30	30	15	100	
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ課題の実習、筆記試験は、授業で取り組んだ内容で出題されます。準備、課題は、毎週の練習の成果で評価します。フィードバックとして、試験後に、講評を行います。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Gmail等）					
アクティブ・ラーニングの活用	発表					
課題に対するフィードバック	課題は次回以降の授業で確認しコメントします。					
テキスト	授業で提示します。資料を配布します。					
参考書・教材	必要に応じて紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	夏休みの課題発表 前期に学んだ項目の確認 〔課題（準備）〕学んだ内容を復習する（2～3H）					
2	モチーフ即興について、（テーマを活かしたメロディー） 〔課題（準備）〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
3	モチーフ即興について、（形式） 〔課題（準備）〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
4	モチーフ即興について、（形式） 〔課題（準備）〕学んだ内容を復習し、実習する（2～3H）					
5	モチーフ即興について、（形式）中間部の作り方について 〔課題（準備）〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
6	モチーフ即興実習、モチーフ 〔準備・課題〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
7	クライマックスをどこにおくか 〔課題（準備）〕学んだ内容を復習し、実習する（2～3H）					
8	指導グレードのコード進行について復習 〔課題（準備）〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
9	指導グレードの移調奏について 〔課題（準備）〕学んだ内容を復習し、実習する（2～3H）					
10	指導グレードの弾き歌い、伴奏付け、 〔課題（準備）〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
11	即興B課題実習（色々な課題に挑戦） 〔課題（準備）〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
12	即興A課題実習 即興B課題実習 試験に向けて（表情豊かな演奏） 〔課題（準備）〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
13	即興A課題実習 即興B課題実習 試験に向けて（表情豊かな演奏） 〔課題（準備）〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
14	即興A課題実習 即興B課題実習 試験に向けて（表情豊かな演奏）初見課題実習 〔課題（準備）〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
15	即興A課題実習 即興B課題実習 試験に向けて（表情豊かな演奏）弾き込み 〔課題（準備）〕学んだ内容を理解し、実習する（2～3H）					
時間外での学修	学習した事を毎日トレーニングしましょう。積極的に課題に取り組みましょう。（問題をたくさんやりましょう） スケールとカデンツは、確実に弾けるようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：73～104時間】					
受講学生へのメッセージ	わからない事を、放置しないようにしましょう。（いつでもよいのできて下さい） オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。					

【302B209】電子オルガン応用実践		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽講師・35年						
授業方法	<p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種々の表現手法について知識を学習しそれらを電子オルガン上で再現していきます。 ・電子オルガンを活用し、詳細な操作、再現手法をマスターしていきます。 ・学んだ知識や操作を活かし、総合的な応用制作に取り組みます。 <p>質問等は授業時やメール等で受け付けます。</p>						
到達目標	知識・理解	様々な表現手法を知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。					
	思考・判断・表現	与えられた情報をもとに、適切な表現手法を選択し、ふさわしいサウンドを構成できる。					
	技能	種々の表現手法において、こだわりをもって望める。					
	関心・意欲・態度	表現手法を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	電子オルガンを用いた演奏や編曲に必要な応用的知識を習得していきます。具体的には、電子オルガンの操作、電子音の仕組み、エフェクトの知識、リズムの打ち込み制作等の知識を深め、繰り返し学習していくことで、操作手順や表現手法を身につけていきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題制作 試験		30	30	20	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項	授業で制作した楽曲データ、又は、レポートを課題として提出し、試験で演奏発表する。フィードバックとして試験後に講評を行います。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)						
アクティブ・ラーニングの活用	制作						
課題に対するフィードバック	授業時間外の取り組みについては、次回以降の授業で確認しコメントします。						
テキスト							
参考書・教材	ステージア パーフェクト・ガイド基礎編・応用編等						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業の概要紹介、電子オルガンを演奏するにあたって、レジストレーションとは。 [課題、復習]演奏するに曲に対する、ふさわしいレジストレーションについて理解し、復習する。(2h)						
2	音質と音の表情について考える。 [課題、復習]音質と音の表情を読み取り、判断して、レジスト作りを始める。(2h)						
3	設定。タッチトーン、フィート、パンなど [課題、復習]設定の内容を理解し、復習する。(2h)						
4	音色について知識を深める：木管楽器 [課題、復習]木管楽器について理解し、復習する。(2h)						
5	音色について知識を深める：金管楽器 1 [課題、復習]金管楽器について理解し、復習する。(2h)						
6	音色について知識を深める：金管楽器 2 [課題、復習]金管楽器について理解し、復習する。(2h)						
7	音色について知識を深める：弦楽器 1 [課題、復習]弦楽器について理解し、復習する。(2h)						
8	音色について知識を深める：弦楽器 2 [課題、復習]弦楽器について理解し、復習する。(2h)						
9	音色について知識を深める：打楽器 [課題、復習]打楽器について理解し、復習する。(2h)						
10	音色について知識を深める：トウッティ [課題、復習]トウッティについて理解し、復習する。(2h)						
11	異なる楽器(音色)の組み合わせと音群の考え方。組み合わせのポイントを知る。 [課題、復習]組み合わせのポイントを理解し、復習する。(2h)						
12	異なる楽器(音色)の組み合わせと音群の考え方。音群の使い方 [課題、復習]音群の使い方について理解し、復習する。(2h)						
13	異なる楽器(音色)の組み合わせと音群の考え方。色々な楽器の組み合わせについて [課題、復習]色々な楽器の組み合わせについて、理解し、復習する(2h)						
14	設定。ピブラート、トランスポーズ、チューンなど。 より良く聴かせるためのボイスコンディションの設定 [課題、復習]授業で習得した事を復習する。(2h)						
15	ボイスエディットの考え方 [課題、復習]授業で学習した事を復習する。(2h)						

時間外での学修	<p>各回の授業で学ぶ電子オルガンの操作は、繰り返し経験していく事で身につけていきます。授業で取り扱った内容は、日頃から積極的に操作してみるようにしましょう。また、演習で得た知識は、電子オルガンに限らず、現代の様々な音楽の表現手法につながります。身の回りの音楽では、どの様に活用されているか、常に意識して音楽と接すると良いでしょう。</p> <p>【この科目で求める望ましい授業外での総学習時間：30時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>細かい操作や耳慣れない用語が沢山できますが、どれも身近にある音楽に深く関わっているものです。電子音楽の視点から、様々な音楽のサウンドを多角的に探究してみましょう。</p> <p><オフィスアワー> 授業時間の前後5分程度</p>

【302S210】電子オルガン応用実践		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽講師・35年						
授業方法	<p>< 演習 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・種々の表現手法について知識を学習しそれらを電子オルガン上で再現していきます。 ・電子オルガンを活用し、詳細な操作、再現手法をマスターしていきます。 ・学んだ知識や操作を活かし、総合的な応用制作に取り組みます。 <p>質問等は授業時やメール等で受け付けます。</p>						
到達目標	知識・理解	様々な表現手法を知り、世の中に溢れる音楽において、それらの存在を理解できる。					
	思考・判断・表現	与えられた情報をもとに、適切な表現手法を選択し、ふさわしいサウンドを構成できる。					
	技能	種々の表現手法において、こだわりをもって望める。					
	関心・意欲・態度	表現手法を研究する上で生じる疑問を、自ら発見し、質問できる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	電子オルガンを用いた演奏や編曲に必要な応用の知識を習得していきます。具体的には、電子オルガンの操作、電子音の仕組み、エフェクトの知識、リズムの打ち込み制作等の知識を深め、繰り返し学習していくことで、操作手順や表現手法を身につけていきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題制作 試験		30	30	20	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項	授業で制作した楽曲データ、又は、レポートを、課題として提出し、試験で演奏発表する。フィードバックとして試験後に講評を行います。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援 (Gmailなど)						
アクティブ・ラーニングの活用	制作						
課題に対するフィードバック	授業時間外の取り組みについては、次回以降の授業で確認しコメントします。						
テキスト							
参考書・教材	ステージア パーフェクト・ガイド基礎編・応用編等						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業の概要紹介：電子オルガンを演奏するにあたって、様々な楽器の音の出る仕組み、音楽の中での役割について理解しする。 楽器編成、スタイルを学ぶ(クラシック：弦楽四重奏、室内オーケストラ) [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)						
2	電子オルガンを演奏するにあたって、様々な楽器の音の出る仕組み、音楽の中での役割について理解しする。 楽器編成、スタイルを学ぶ(クラシック：吹奏楽) [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)						
3	電子オルガンを演奏するにあたって、様々な楽器の音の出る仕組み、音楽の中での役割について理解しする。 楽器編成、スタイルを学ぶ(クラシック：オーケストラ) [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)						
4	電子オルガンを演奏するにあたって、様々な楽器の音の出る仕組み、音楽の中での役割について理解しする。 楽器編成、スタイルを学ぶ(ポピュラー：コンボスタイル) [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)						
5	電子オルガンを演奏するにあたって、様々な楽器の音の出る仕組み、音楽の中での役割について理解しする。 楽器編成、スタイルを学ぶ(ポピュラー：ロック・バンド・スタイル) [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)						
6	電子オルガンを演奏するにあたって、様々な楽器の音の出る仕組み、音楽の中での役割について理解しする。 楽器編成、スタイルを学ぶ(ポピュラー：カントリー・バンド・スタイル) [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)						
7	電子オルガンを演奏するにあたって、様々な楽器の音の出る仕組み、音楽の中での役割について理解しする。 楽器編成、スタイルを学ぶ(ポピュラー：タンゴ・オーケストラ・スタイル) [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)						
8	電子オルガンを演奏するにあたって、様々な楽器の音の出る仕組み、音楽の中での役割について理解しする。 楽器編成、スタイルを学ぶ(ポピュラー：ラテン・ビッグバンド・スタイル) [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)						
9	電子オルガンを演奏するにあたって、様々な楽器の音の出る仕組み、音楽の中での役割について理解しする。 楽器編成、スタイルを学ぶ(ポピュラー：ポップス・オーケストラ・スタイル) [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)						
10	音楽の根源をなす、リズムについて<リズムと音色・拍と拍子(ビート)> [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	音楽の根源をなす、リズムについて<リズムパターンのいろいろ(8ビート・8ビートシャッフル)> [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)
12	音楽の根源をなす、リズムについて<リズムパターンのいろいろ(16ビート・16ビートシャッフル)> [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)
13	音楽の根源をなす、リズムについて<リズムパターンのいろいろ(4ビート・ジャズワルツ)> [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)
14	音楽の根源をなす、リズムについて<ラテンミュージック(サンバ・ルンバ・ビギン)> [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)
15	音楽の根源をなす、リズムについて<ラテンミュージック(マンボ・ボサノバ・サルサ・タンゴ)> [準備・課題]学んだ内容を理解、復習し、実習する(2~3h)
時間外での学修	各回の授業で学ぶ電子オルガンの操作は、繰り返し経験していく事で身につけていきます。 授業で取り扱った内容は、日頃から積極的に操作してみるようにしましょう。 また、演習で得た知識は、電子オルガンに限らず、現代の様々な音楽の表現手法につながります。 身の回りの音楽では、どの様に活用されているか、常に意識して音楽と接すると良いでしょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学習時間：30~45時間】
受講学生へのメッセージ	細かい操作や耳慣れない用語が沢山ありますが、どれも身近にある音楽に深く関わっているものです。 電子音楽の視点から、様々な音楽のサウンドを多角的に探究してみましょう。 <オフィスアワー> 授業時間の前後5分程度

【301B213】ピアノ演習		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術修得に向け、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。					
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術を向上することができる。					
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	個々の目標に合わせた教材・楽曲に取り組みながら、ピアノ演奏に必要とされる強く独立性のある指作り、自らの体で強弱や音色を創り出し表現する演奏技術を修得します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	実技試験は任意の曲の演奏を最終試験で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Gmailなど）						
アクティブ・ラーニングの活用	発表						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,430円) ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし 『ソナチネアルバム またはソナタアルバム』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業説明：今後の進め方 曲決め 【課題(準備)】 楽譜を持っている学生は楽譜を持参する(1~2h)						
2~15	ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネ・ソナタ など ・ 正確な譜読み ・ テクニックの修得 ・ 音楽用語の理解 ・ 曲想 ・ 音色づくり ・ 表現 など ヤマハピアノ演奏グレード対策 ・ 変奏課題 ・ モティーフ課題 ・ 課題曲、自由曲 など 課題の確認 【課題(準備・復習)】 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする(各1~2h)						
時間外での学修	授業外で毎日ピアノを練習する習慣を身に付け、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスン内容を自ら楽譜やノート等へ書き留めるなど、自ら学ぶ姿勢で積極的に受講してください。オフィスアワーはB206で月曜日2・3限目です。						

【301S214】ピアノ演習		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術修得に向け、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	幅広い音楽的知識を身に付け、ピアノ演奏法を理解することができる。					
	思考・判断・表現	楽曲に対する思考力を働かせ、ふさわしい演奏表現をすることができる。					
	技能	演奏技術を向上することができる。					
	関心・意欲・態度	指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、常にピアノに関心を持って積極的な取り組みができる。					
備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。						
授業内容	前期に修得した基礎を土台とし、ピアノの演奏技術を高め、表現力を身に付けていきます。個々の目標に合わせて学修します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	実技試験は任意の曲の演奏を最終試験で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)						
アクティブ・ラーニングの活用	発表						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(1,430円) ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし 『ソナチネアルバム またはソナタアルバム』指定なし						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1～15	<p>ハノン、練習曲、バッハ、ソナチネ・ソナタ など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な譜読み ・ テクニックの修得 ・ 音楽用語の理解 ・ 曲想 ・ 音色づくり ・ 音楽表現 など <p>ヤマハピアノ演奏グレード対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 変奏課題 ・ モティーフ課題 ・ 課題曲、自由曲 など <p>課題の確認 [課題(準備・復習)] 毎回のレッスンでのアドバイスを踏まえ、各課題に取り組み、準備・復習をする (各1～2h)</p>						
時間外での学修	授業外での毎日の練習を怠らず、毎回のレッスンでレベルアップするように取り組みましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】						
受講学生へのメッセージ	自らの指や体で音色を創り出して、自然な演奏ができるよう、積極的に演奏法を修得しましょう。 オフィスアワーはB206で月曜日2・3限目です。						

【3P2B213】電子オルガン演習		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	相原 里美					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	音楽教室講師・30年					
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。発表を含めて授業を行います。質問・要望等授業時やメール等で受け付けます。					
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し、電子オルガンの操作、奏法を理解できる。				
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図を読み取ることができる。表現豊かな演奏ができる。				
	技能	データをいかした演奏力の向上。				
	関心・意欲・態度	関心を持ち自ら意欲的に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	電子オルガンの基本操作、演奏法を学びます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	30	30	-	60
	発表	-	5	5	-	10
	受講態度	10	-	-	20	30
	合計(点)	10	35	35	20	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で評価します。フィードバックとして発表と定期試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Gmailなど）					
アクティブ・ラーニングの活用	発表					
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。					
テキスト	個々に合わせて選択します。					
参考書・教材	個々に合わせて選択します。					
実施回	内容 授業内容・目標					
1	授業説明(今後の授業の進め方等) [課題(準備)]電子オルガン演奏の視聴を試みる(1h)					
2	電子オルガンの操作、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、電子オルガンに慣れる(1h)					
3	電子オルガンの機能、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、電子オルガンの機能を使ってみる(1h)					
4	電子オルガンの奏法(1)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、ピアノ譜を電子オルガンで弾いてみる(1h)					
5	電子オルガンの奏法(2)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、ピアノと電子オルガンの相違点を理解する(1h)					
6	レジストについて、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、各楽器の音域に気を付けながらレジストを組んでみる(1h)					
7	強弱(Exp.p)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、Exp.pを使用し、強弱をつけられるようにする(1h)					
8	ベース奏法について、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、ベースに慣れる(1h)					
9	3段譜の演奏を試みる、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、ゆっくりなテンポで弾けるようにする(1h)					
10	試験に向けての取り組み(1)選曲・課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、選曲後、各自譜読みに取り組む(1h)					
11	試験に向けての取り組み(2)譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、正確に譜読みを行う(1h)					
12	試験に向けての取り組み(3)強弱、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、強弱をつけて弾けるようにする(1h)					
13	試験に向けての取り組み(4)奏法の研究、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、タッチに気を付けて弾けるようにする(1h)					
14	試験に向けての取り組み(5)暗譜、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜に取り組む(1h)					
15	試験に向けての取り組み(6)発表、仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]レッスンの復習をし、発表後に得たコメントを復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1h)					
時間外での学修	色々なジャンルの音楽を沢山聴きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】					
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して、電子オルガンに向かいましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間前後の休み時間です。					

【3P2S214】電子オルガン演習		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	相原 里美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・30年						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。発表を含めて授業を行います。質問・要望等授業時やメールで受け付けます。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し、電子オルガンの操作、奏法を理解できる。					
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図を読み取ることができる。表現豊かな演奏ができる。					
	技能	データをいかした演奏力の向上。					
	関心・意欲・態度	関心を持ち自ら意欲的に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、アレンジに挑戦します。前期と同様、演奏法を研究し修得します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	発表		-	5	5	-	10
	受講態度		10	-	-	20	30
	合計(点)		10	35	35	20	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。フィードバックとして発表と定期試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Gmailなど）						
アクティブ・ラーニングの活用	発表						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の宿題を発表する、選曲 [課題(準備)]選曲後、各自譜読みに取り組む(1h)						
2	前期の復習、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、次の曲に取り組む(1h)						
3	レパートリーを増やす(1)譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、見落としのないよう正確な譜読みを行う(1h)						
4	レパートリーを増やす(2)オルガン奏法、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲に合った弾き方ができるようにする(1h)						
5	電子オルガンの操作など、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、電子オルガンの機能を使ってみる(1h)						
6	レジストについて、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、各楽器の音域、組み合わせを考えながらレジストを組む(1h)						
7	データの分析、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、入力技術を理解する(1h)						
8	アレンジに向けて(説明・選曲)、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、アレンジ方法を理解する(1h)						
9	アレンジに挑戦：取り組み(1)課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、アレンジを進める(1h)						
10	アレンジに挑戦：取り組み(2)課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、さらにアレンジを進める(1h)						
11	試験に向けての取り組み(1)課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、選曲後に各自譜読みに取り組む(1h)						
12	試験に向けての取り組み(2)譜読みの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、見落としの無いように正確な譜読みを行う(1h)						
13	試験に向けての取り組み(3)全体の流れ、バランスの確認、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、全体の流れを考えながら弾き込む(1h)						
14	試験に向けての取り組み(4)暗譜、課題の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜に取り組む(1h)						
15	試験に向けての取り組み(5)発表、仕上げ、課題の確認 [課題(復習)]レッスンの復習をし、発表後に得たコメントを復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】						
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して、電子オルガンに向かいましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間前後の休み時間です。						

【3S8B201】和声法		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	三輪 泰子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	音楽教室講師・17年					
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。課題を取り組むための自主性を養います。質問等は授業時やメール等で受け付けます。					
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。				
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。				
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。				
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	試験	50	20	20	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	50	20	20	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。フィードバック試験結果についてコメントを返します。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)					
アクティブ・ラーニングの活用	課題以外にも、自主的に勉強する姿勢を奨励し、質問を受け付け、指導します。					
課題に対するフィードバック	課題を理解し、消化しているか、毎回、個人指導していきます。					
テキスト	『和声 理論と実習』島岡 譲 他 音楽之友社(3,024円) ISBN:978-4276102057					
参考書・教材	特にありません。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	和声学の予備知識 [課題]教科書を購入して、読んでみましょう。(2h)					
2	基本位置3和音の配置 [課題]課題1.2を解いてみましょう。(2h)					
3	基本位置3和音の配置 [課題]課題3.4を解いてみましょう。(2h)					
4	基本位置3和音の配置 [課題]課題5()を解いてみましょう。(2h)					
5	基本位置3和音の配置 [課題]課題6()を解いてみましょう。(2h)					
6	和音設定の原理 [課題]課題7(T,D,S)を解いてみましょう。(2h)					
7	和音設定の原理 [課題]課題8(複合カデンツ)を解いてみましょう。(2h)					
8	和音設定の原理 [課題]課題9(終止形)を解いてみましょう。(2h)					
9	各種の調(長調) [課題]課題10を解いてみましょう。(2h)					
10	各種の調(短調) [課題]課題11を解いてみましょう。(2h)					
11	各種の調(総合) [課題]課題12を解いてみましょう。(2h)					
12	補充課題 [課題]3和音基本位置(1~3)を解いてみましょう。(2h)					
13	補充課題 [課題]3和音基本位置(4~6)を解いてみましょう。(2h)					
14	補充課題 [課題]3和音基本位置(7~10)を解いてみましょう。(2h)					
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(2h)					
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】					
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。オフィスアワーは、教室で授業前後です。					

【3S8S202】和声法		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。課題を取り組むための自主性を養います。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	和声の基礎的な知識を身に付ける。					
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。					
	技能	グレード取得により、社会的評価を得る。					
	関心・意欲・態度	和声の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	指導グレードに必要な和声学を身に付け、グレード取得を目指します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には、単位を与えません。フィードバックとして試験結果についてコメントを返します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)						
アクティブ・ラーニングの活用	課題以外にも、自主的に勉強する姿勢を奨励し、質問を受け付け、指導します。						
課題に対するフィードバック	課題を理解し、消化しているか、毎回、個人指導していきます。						
テキスト	『和声 理論と実習』音楽之友社(3,024円) ISBN:978-4276102057 「和声学」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	3和音の第1転回位置 [課題]課題13,14,15を解いてみましょう。(2h)						
2	3和音の第1転回位置 [課題]課題16,17,18を解いてみましょう。(2h)						
3	3和音の第1転回位置 [課題]課題19(1~4)を解いてみましょう。(2h)						
4	3和音の第1転回位置 [課題]課題19(5~8)を解いてみましょう。(2h)						
5	3和音の第1転回位置 [課題]課題19(9~12)を解いてみましょう。(2h)						
6	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題]課題(1~5)を解いてみましょう。(2h)						
7	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題]課題(6~10)を解いてみましょう。(2h)						
8	3和音の第2転回位置 [課題]課題20,21,22,23を解いてみましょう。(2h)						
9	3和音の第2転回位置 [課題]課題24(1~6)を解いてみましょう。(2h)						
10	3和音の第2転回位置 [課題]課題24(7~12)を解いてみましょう。(2h)						
11	補充課題の実習(3和音の第2転回位置) [課題]課題(1~5)を解いてみましょう。(2h)						
12	補充課題の実習(3和音の第2転回位置) [課題]課題(6~10)を解いてみましょう。(2h)						
13	補充課題の実習(3和音総合) [課題]課題(1~5)を解いてみましょう。(2h)						
14	補充課題の実習(3和音総合) [課題]課題(6~10)を解いてみましょう。(2h)						
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(2h)						
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3S5B201】吹奏楽		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	森岡 佐和・小林 聡・野々垣 行恵						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	森岡：オーケストラ25年 小林：大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年						
授業方法	吹奏楽の合奏を中心にセクションやパート別に演習を行い個々の合奏能力を高めていきます。						
到達目標	知識・理解	時代や様式に合ったスタイルを理解し、それぞれに適切な演奏方法を学ぶ。					
	思考・判断・表現	楽譜に書かれていることから適切な練習方法、表現方法を自ら工夫して判断できる力を養う。					
	技能	合奏の中で他の音を聴く力を高め、音楽の流れを掴む力を磨く。					
	関心・意欲・態度	課題の曲への取り組み方、準備、曲に関する情報を自ら収集する。					
授業内容	様々な時代、様式の音楽を取り上げながらアンサンブルの基本を学び、拍節、和声などの基本を学びます。さらに古楽に触れることで現代の音楽がいかに表現されるべきかを理解し表現力を高めます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	10	10	-	30
	受講態度		10	20	30	10	70
	合計(点)		20	30	40	10	100
評価の特記事項	各授業での合奏の取り組みの姿勢、準備、真剣さ、熱意なども含め総合的な評価の対象とします。						
ICT活用	不明なことなどはオンラインでの個人レッスンなどで対応します。学生ポータル						
アクティブラーニングの活用	セクション練習、パート練習などのグループワークおよびディスカッション						
課題に対するフィードバック	達成度を自己評価し、未到達の部分は授業後などに個々の課題に共に取り組みます。						
テキスト	その都度配布します。						
参考書・教材	楽譜、楽曲、作曲家などに関する資料をその都度配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 年間予定の説明、合奏授業での注意点、取り組む課題とその目標を理解する。目標：楽しい合奏になるように音の響きをしっかりと掴む。 練習用課題の楽譜の配布、譜読みを行い、曲の全体像を把握するとともに改善すべき点をチェックする。 〔課題(復習)〕配られた楽譜の練習。目標：ゆっくりのテンポで一つずつの音の動きを確実に演奏できること。(4h)						
2	スケール、ハーモニーの練習。各調で5度の進行によるハーモニー上でのスケールの練習を行う。目標：音階固有の音を感覚的に捉えること。簡単な即興ができるようになることと、その意味を理解すること。 前回は引き続き練習用の楽曲の合奏 グレゴリオ聖歌を練習し、短旋律での音のつながりを捉える。						
3	スケール、ハーモニーの練習。前回の内容をさらに各調にて練習を行う。 F dur, Es dur など。ルネサンスの音楽世俗的な舞曲(パヴァーヌ、ガイヤルド等)を演奏することで、リズムの強弱を理解する。 〔課題(復習)〕F dur, Es dur の音階練習(4h)						
4	スケール、ハーモニーの練習。これまでに練習した調の平行短調の練習。ルネサンスの音楽世俗的な舞曲(ジグ、サラバンド等)を演奏することで、リズムの強弱を理解する。 〔課題(復習)〕g moll, d moll, c mollの音階練習(4h)						
5	スケール、ハーモニーの練習。これまでに練習した調でさらに様々な音形をマスターする。ルネサンスのポリフォニーの音楽に触れる。異なる声部の音を聞く力を養う。 身近なポピュラーミュージックへ取り組む。歌心を意識して演奏ができるようにする。 〔課題(復習)〕様々な音形の練習(4h)						
6	スケール、ハーモニーの練習。前回までの音階練習にアーティキュレーションを加えた練習を行う。前回は引き続きルネサンスのポリフォニーの音楽に触れる。異なる声部の音を聞く力を養う。 身近なポピュラーミュージックへ取り組む。ベースの動きとコード進行を聞きながら演奏ができるようになる。 〔課題(復習)〕様々なアーティキュレーションでの音階練習(4h)						
7	スケール、ハーモニーの練習。G dur, D, dur e moll, h mollで前回までの練習を行う。前回は引き続きルネサンスのポリフォニーの音楽に触れる。異なる声部の音を聞く力を養う。 身近なポピュラーミュージックへ取り組む。ベースとリズムの動きがいかに重要であるかを理解する。 〔課題(復習)〕G dur, D, dur e moll, h mollで様々なアーティキュレーションでの音階練習(4h)						
8	スケール、ハーモニーの練習。半音階の練習、3度から5度までのインターバルの練習 前回は引き続きルネサンスのポリフォニーの音楽に触れる。声部間の対話、やりとりができることを目標に合奏を行う。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 〔課題(復習)〕半音階の練習(4h)						
9	スケール、ハーモニーの練習。半音階の練習、4度から6度までのインターバルの練習 前回は引き続きルネサンスのポリフォニーの音楽に触れる。声部間の対話、やりとりができることを目標に合奏を行う。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 〔課題(復習)〕半音階の練習(4h)						
10	スケール、ハーモニーの練習。半音階の練習、7度から8度までのインターバルの練習 バロックの音楽に触れる。様々な舞曲の様式を理解する。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 〔課題(復習)〕半音階の練習(4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した3度の跳躍の練習 前回は引き続きバロックの音楽に触れる。様々な舞曲（サラバンド、ジグ等）の様式を理解する。 スタンダードなジャズからリズムの流れを理解する。 〔課題（復習）〕半音階の練習 3度の跳躍の練習(4h)
12	スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した4度の跳躍の練習 前回は引き続きバロックの音楽に触れる。様々な舞曲（クーラント、アルマンド等）の様式を理解する。 アドリブへのチャレンジ 〔課題（復習）〕半音階の練習 4度の跳躍の練習(4h)
13	スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した5度の跳躍の練習 前回は引き続きバロックの音楽に触れる。様々な舞曲（ブレー、メヌエット等）の様式を理解する。 アドリブへのチャレンジ 〔課題（復習）〕半音階の練習 5度の跳躍の練習(4h)
14	スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した6度の跳躍の練習 前回は引き続きバロックの音楽に触れる。様々な舞曲（ポロネーズ、マズルカ等）の様式を理解する。 アドリブへのチャレンジ 〔課題（復習）〕半音階の練習 6度の跳躍の練習(4h)
15	スケール、ハーモニーの練習。ソノリテを意識した7度の跳躍の練習 前回は引き続きバロックの音楽に触れる。バッハの作品の演奏 アドリブへのチャレンジ 〔課題（復習）〕半音階の練習 7度の跳躍の練習(4h)
時間外での学修	効率の良い練習でしっかりと基本を身につけてください。そのためにはスケールをしっかりと理解していくことです。【この科目で求める授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	合奏では全員が心をひとつに美しい音楽を作っていきます。古楽を知ることは現代の音楽のルーツを知ることに繋がります。一つ一つのハーモニーがさらに大きな広がりとなるよう楽しい合奏を行なっていきます。オフィスアワーは授業の間の休憩時間、授業後とします。

【3S5S202】吹奏楽		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	選択	演習	60時間	
教員	森岡 佐和・小林 聡・野々垣 行恵					
資格・制限等	Wコース必修					
実務家教員	森岡：オーケストラ25年 小林：大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年					
授業方法	吹奏楽の合奏を中心にセクションやパート別に演習を行い個々の合奏能力を高めていきます。					
到達目標	知識・理解	時代や様式に合ったスタイルを理解し、それぞれに適切な演奏方法を学ぶ。				
	思考・判断・表現	楽譜に書かれていることから適切な練習方法、表現方法を自ら工夫して判断できる力を養う。				
	技能	合奏の中で他の音を聴く力を高め、音楽の流れを掴む力を磨く。				
	関心・意欲・態度	課題の曲への取り組み方、準備、曲に関する情報を自ら収集する。				
授業内容	様々な時代、様式の音楽を取り上げながらアンサンブルの基本を学び、拍節、和声などの基本を学びます。古典派、ロマンはの様式から近現代の音楽への流れを楽曲の演奏を通じて学修します。様々なポピュラー音楽の違いを探りそれぞれの演奏スタイルを理解します。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	10	10	-	30
	受講態度	10	20	30	10	70
	合計(点)	20	30	40	10	100
評価の特記事項	各授業での合奏の取り組みの姿勢、準備、真剣さ、熱意なども含め総合的な評価の対象とします。					
ICT活用	不明なことなどはオンラインでの個人レッスンなどで対応します。学生ポータル					
アクティブラーニングの活用	セクション練習、パート練習などのグループワークおよびディスカッション					
課題に対するフィードバック	達成度を自己評価し、未到達の部分は授業後などに個々の課題に共に取り組みます。					
テキスト	その都度配布します。					
参考書・教材	楽譜、楽曲、作曲者などに関する資料をその都度配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。モーツァルトのグランパルティータを演奏し、ハーモニーの美しさを味わいながらそれぞれの楽章の様式を理解していく。 〔課題(復習)〕スケールの練習(フラット、シャープ3つまで)(4h)					
2	スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを意識し生き生きとした音楽表現の方法を知る。前回は引き続き、モーツァルトのグランパルティータを演奏し、ハーモニーの美しさを味わいながらそれぞれの楽章の様式を理解していく。 〔課題(復習)〕スケールの練習(フラット、シャープ4つまで)(4h)					
3	スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを意識し生き生きとした音楽表現の方法を知る。前回は引き続き、モーツァルトのグランパルティータを演奏し、ハーモニーの美しさを味わいながらそれぞれの楽章の様式を理解していく。 〔課題(復習)〕スケールの練習(フラット、シャープ5つまで)(4h)					
4	スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを応用し、一つ一つの音の長さをどのように扱うかを理解する。前回は引き続き、モーツァルトのグランパルティータの仕上げ。ロマン派の音楽に触れる。ロマン派の音楽に息づく精神を感じ取る。 〔課題(復習)〕スケールの練習(総合練習)(4h)					
5	スケール、ハーモニーの練習。これまでに学修した内容をさらに色々な調へ拡大して練習する。舞曲のリズムを応用し、前回は引き続き一つ一つの音の長さをどのように扱うかを理解する。自由に音形を創造し、スケール練習のヴァリエーションを広げる。前回は引き続き、ロマン派の音楽に触れる。ロマン派の音楽に息づく精神を感じ取る。定期演奏会へ向けての練習 〔課題(復習)〕スケールの練習(総合練習)(4h)					
6	スケール、ハーモニーの練習。今まで学修してきたことを総合的に組み合わせ、ハーモニーの中でのスケールの動き、変化、抑揚などを理解する。前回は引き続き、ロマン派の音楽に触れる。ロマン派の音楽に息づく精神を感じ取る。比較的新しいジャズ、ポップスへの取り組み。古い音楽とのリズムの違いを知る。定期演奏会へ向けての練習 〔課題(復習)〕スケールの練習(総合練習)(4h)					
7	スケール、ハーモニーの練習。近代の音楽(ドビュッシー、ラヴェル等)音楽に触れ、その色彩感を味わう。比較的新しいジャズ、ポップスへの取り組み。古い音楽とのリズムの違いを知る。定期演奏会へ向けての練習 〔課題(復習)〕スケールの練習(総合練習)(4h)					
8	スケール、ハーモニーの練習。近代の音楽(ドビュッシー、ラヴェル等)音楽に触れ、その色彩感を味わう。ラテンの音楽、南米などの音楽にふれマンボ、ボサなどのリズムを知る。定期演奏会へ向けての練習 〔課題(復習)〕スケールの練習(総合練習)(4h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
9	スケール、ハーモニーの練習。 近代の音楽（ドビュッシー、ラヴェル等）音楽に触れ、その色彩感を味わう。 ラテンの音楽、南米などの音楽にふれマンボ、ボサなどのリズムを知る。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕スケールの練習（総合練習）(4h)
10	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 吹奏楽のオリジナル作品の中でもホルスト、グレンジャーなどの歴史のあるものを取り上げる。管楽合奏の響きを体得する。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕半音階の練習 総合練習(4h)
11	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回は引き続き、吹奏楽のオリジナル作品の中でもホルスト、グレンジャーなどの歴史のあるものを取り上げる。管楽合奏の響きを体得する。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕半音階の練習 総合練習(4h)
12	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回は引き続き、吹奏楽のオリジナル作品の中でもホルスト、グレンジャーなどの歴史のあるものを取り上げる。管楽合奏の響きを体得する。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕半音階の練習 総合練習(4h)
13	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 アメリカの吹奏楽のオリジナルの作品に触れる。マーチから現代の作曲家まで。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕半音階の練習 総合練習(4h)
14	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回は引き続き、アメリカの吹奏楽のオリジナルの作品に触れる。マーチから現代の作曲家まで。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕半音階の練習 総合練習(4h)
15	スケール、ハーモニーの練習。総合練習 前回は引き続き、アメリカの吹奏楽のオリジナルの作品に触れる。マーチから現代の作曲家まで。 定期演奏会へ向けての練習 〔課題（復習）〕半音階の練習 総合練習(4h)
時間外での学修	効率の良い練習でしっかりと基本を身につけてください。そのためにはスケールをしっかりと理解していくことです。 〔この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間〕
受講学生へのメッセージ	合奏では全員が心をひとつに美しい音楽を作っていきましょう。一つ一つのハーモニーがさらに大きな広がりとなるよう楽しい合奏を行なっていきます。 オフィスアワーは授業後などの休み時間とします。オフィスアワーは授業の間の休憩時間、授業後とします。

【3W5B205】アンサンブル		音楽総合学科		1年前期			
		3単位	必修	演習	90時間		
教員	森岡 佐和						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	オーケストラ25年						
授業方法	アンサンブルをするための基本的な表現方法や技術を講義によって学びます。そのうえで、同属楽器を中心にアンサンブルを編成し、楽曲を探究します。それぞれの編成において、実技レッスンを行います。最終試験として、互いに発表しあい、意見を交換します。また、学外コンサート用楽曲を題材に、合奏を中心に基本的な技術と表現方法を学びます。						
到達目標	知識・理解	アンサンブルや合奏を成立させるために必要なスケール（長調）、移調、ハーモニー等についての基本的な知識や方法を理解できる。					
	思考・判断・表現	アンサンブルや合奏を通して、各自が持つ積極性、運営力やコミュニケーション力を使い、楽譜を正しく理解した上で、楽譜通り正確に演奏できる。					
	技能	スムーズな移調ができる。全調スケールが演奏できる。初見演奏力を身につける。					
	関心・意欲・態度	誰が聴いても肯定できる演奏表現を身につけるために、真摯な姿勢で努力を継続することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	アンサンブルや合奏（小編成）を通して、演奏技術、表現能力、各奏者間のコミュニケーション能力を磨きます。前期は特に移調や、全調スケール（長調）、ハーモニー等を学修した上で、正しい楽譜の読み方を学びます。また、初見演奏力を初めとする演奏表現に必要な基本的な力を身につけます。学外演奏会を実現する中で様々な役割を経験します。その上で、生演奏でしか味わえない「音による会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験、小テスト		20	20	30	-	70
	課題提出、受講態度		10	10	-	10	30
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は、受講姿勢、課題の取り組み状況などを基に総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
アクティブラーニングの活用	アンサンブルによるグループワーク、ディスカッションなど						
課題に対するフィードバック	小テストや課題は、個々の取り組みや学びを確認し、質問にはコメントを返します。アンサンブル及び、合奏レッスンにおいて、個々の課題を指摘し改善方法や練習方法を示します。						
テキスト	『随時プリント配付』						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等。 学外演奏のためのレパートリー [課題（準備・復習・予習）]シラバスの熟読、本時学修内容の復習。移調の方法を予習しておく。配布楽譜の予習・復習。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）。（2～4h）						
2	移調の基礎知識と移調楽器について 学外演奏のためのレパートリー [課題（復習）]本時学修内容（各移調楽器の特徴、調性）の復習及び、練習課題に取り組む。配布楽譜の予習・復習。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）。（2～4h）						
3	移調の方法と実践 学外演奏のためのレパートリー [課題（復習・予習）]本時学修内容（管楽器における移調の実践方法）の復習及び、練習課題に取り組む。小テスト（記譜・移調）の予習。配布楽譜の予習・復習。合奏曲の正確な譜読み（音とリズム）。（2～4h）						
4	移調の方法と実践 学外演奏のためのレパートリー [課題（復習・予習）]本時学修内容（管楽器における移調の実践方法）の復習及び、練習課題に取り組む。小テスト（記譜・移調）の予習。配布楽譜の予習・復習。合奏曲の正確な譜読み（アーティキュレーションと強弱）。（2～4h）						
5	小テスト（記譜・移調） 学外演奏のためのレパートリー [課題（準備・復習）]小テスト（記譜・移調）の復習。スケールテストの準備。配布楽譜の予習・復習。合奏曲の正確な譜読み。（アーティキュレーションと強弱）（2～4h）						
6	アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリー、全調スケール（長調） [課題（復習）]アンサンブル曲の正確な譜読み（音とリズム）。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み（フレージング、バランス）（2～4h）						
7	アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリー、全調スケール（長調） [課題（復習）]アンサンブル曲の正確な譜読み（音とリズム）。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み（フレージング、バランス）（2～4h）						
8	アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリーまとめ、全調スケール（長調） [課題（復習）]アンサンブル曲の正確な譜読み（アーティキュレーション、強弱）。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み（まとめ）（2～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
9	アンサンブル演習 学外演奏のためのレパートリーまとめ、全調スケール(長調) [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(アーティキュレーション、強弱)。スケールテストの準備。合奏曲の正確な譜読み(まとめ)(2~4h)
10	小テスト(全調スケール:長調) 学内コンサートのためのレパートリー [課題(復習)]全調スケールテストの復習と定着。合奏曲の正確な譜読み(音とリズム)(2~4h)
11	アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(フレージング、バランス)。合奏曲の正確な譜読み(音とリズム)(2~4h)
12	アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(フレージング、バランス)。合奏曲の正確な譜読み(アーティキュレーション、強弱)(2~4h)
13	アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(個性を活かした表現)。合奏曲の正確な譜読み(アーティキュレーション、強弱)(2~4h)
14	アンサンブル演習 学内コンサートのためのレパートリー [課題(復習)]アンサンブル曲の正確な譜読み(個性を活かした表現)。合奏曲の正確な譜読み(フレージング、バランス)(2~4h)
15	前期まとめ アンサンブル演習 [課題(復習)]発表会の反省。講評で指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)
時間外での学修	個人の基礎練習を日頃から行い身体にしみ込ませましょう。アンサンブルについては、メンバー同士のコミュニケーションを取り、授業時間外で合わせの練習や研究の実践が必要です。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間:30~60時間】
受講学生へのメッセージ	履修学生は授業内容に沿った個人練習(予習・復習)と学修内容の復習を必要不可欠とします。授業の性格上、欠席や遅刻が他の受講生の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組みましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。

【3W5S206】アンサンブル		音楽総合学科		1年後期			
		3単位	必修	演習	90時間		
教員	森岡 佐和						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業方法	後期は、各アンサンブルを通じてメロディの演奏法を中心に学修します。みずき祭や学外演奏、定期演奏会等での発表を通じて、メンバーの一員としての演奏表現力や姿勢を学びます。発表しあい、意見を交換します。また、学外（学内）コンサート用楽譜を中心に、小合奏を中心に基本的な技術と表現方法も同時に学びます。						
到達目標	知識・理解	メロディの歌い方についての実践的な方法を理解できる。ソリストとしての演奏法や心構えについて、より深く理解できる。					
	思考・判断・表現	メンバーの一員として、個性豊かな演奏表現力を身につける。					
	技能	全調スケール（短音階）ができるとともにメロディの歌い方を正しく理解し、演奏することができる。個人の音作りとアンサンブルの音作りを結びつけて、音楽性を伴った演奏ができる					
	関心・意欲・態度	感動を生むくらいの調和、自発性、総合的音楽性を養うために深く探求することができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	後期は特に全調スケール（短調）や、メロディの歌い方について学修した上で、一つの音楽をメンバーとともに作り上げる研究をします。また、学外（学内）コンサートや定期演奏会を実現する中で、演奏家としてのマナーを学び、合奏に必要な実践的な能力を学びます。その上で、生演奏でしか味わえない「音による会話」の臨場感を感じ、発展的な演奏をする喜びを体験します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験、小テスト		20	20	30	-	70
	課題提出、受講態度		10	10	-	10	30
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は、受講姿勢、課題の取り組み状況などを基に総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
アクティブ・ラーニングの活用	アンサンブルによるグループ・ワーク、ディスカッションなど						
課題に対するフィードバック	小テストや課題は、個々の取り組みや学びを確認し、質問にはコメントを返します。アンサンブル及び、合奏レッスンにおいて、個々の課題を指摘し改善方法や練習方法を示します。						
テキスト	『随時プリント配付』						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等 学内コンサートのためのアンサンブル、学外コンサート準備 [課題（準備・復習・予習）]シラバスの熟読、本時学修内容の復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)						
2	学内コンサートのためのアンサンブル、学外コンサート準備 [課題（予習・復習）]本時学修内容の復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)						
3	学内コンサートのためのアンサンブル、学外コンサートの準備 [課題（準備、予習・復習）]本時学修内容の復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)						
4	全調スケール（旋律的短音階）テスト 学内コンサートのためのアンサンブル [課題（予習・復習）]本時学修内容の復習。短音階テストの復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)						
5	学内コンサートのためのアンサンブル（まとめ） [課題（予習・復習）]本時学修内容の復習。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)						
6	学外コンサートのためのアンサンブル&小合奏 [課題（復習）]事前に自分の首程の癖を把握しておく。配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)						
7	学外コンサートのためのアンサンブル&小合奏 [課題（復習）]配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)						
8	学外コンサートのためのアンサンブル&小合奏 [課題（復習）]配布楽譜の予習・復習。正確な譜読み。(2~4h)						
9	学外コンサートのためのアンサンブル&小合奏 [課題（準備・復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)						
10	学外コンサートのためのアンサンブル&小合奏 [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)						
11	定期演奏会等にむけた自由アンサンブル [課題（復習・予習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)						
12	定期演奏会等にむけた自由アンサンブル [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)						
13	定期演奏会等にむけた自由アンサンブル [課題（復習）]レッスンで指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)						
14	定期演奏会等にむけた自由アンサンブル [課題（復習）]演習試験の振り返り。指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)						
15	実技試験 [課題（復習）]実技試験の振り返り。指摘された箇所の改善と定着、発展。(2~4h)						

時間外での学修	個人の基礎練習を日頃から行い身体にしみ込ませましょう。アンサンブルについて、個人の演奏能力向上とともに、メンバーとのコミュニケーションを図る必要があります。気を抜かず取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30～60時間】
受講学生へのメッセージ	履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習・復習）と学修内容の復習を必要不可欠とします。授業の性格上、欠席や遅刻が他の受講生の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組みましょう。上級生としての自覚と責任ある言動を期待します。オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。

【3S5B109】吹奏楽概論		音楽総合学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	小林 聡					
資格・制限等	Wコース必修					
実務家教員	大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年					
授業方法	講義を中心にディスカッションも取り入れながら授業を行います。現代の吹奏楽の日本、諸外国での現状、吹奏楽の作曲家、主な作品についてグループワークで研究し発表します。様々な吹奏楽合奏教本を紹介し、実際の合奏方法について理解を深めます。学校、社会人などアマチュア吹奏楽団の運営方法についてグループ・ディスカッションで現状と今後の可能性を探求し研究発表をします。					
到達目標	知識・理解	様々な作曲家、作品に対しての幅広い知識を得る。				
	思考・判断・表現	吹奏楽合奏教本に精通し実際の合奏での思考、判断力を高める。				
	技能	楽団の運営方法の概要を学び将来指導的な立場になった時のスキルを上げる。				
	関心・意欲・態度	自ら題材を選び意欲的に学習を進めながら吹奏楽、音楽全般に携わることへの幸福度を高め、社会貢献へのステップとする。				
授業内容	吹奏楽の楽曲について学修します。数種類の合奏教本を題材にその扱い方を学びます。楽団の運営方法について研究していきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	10	10	-	50
	授業時間内課題	20	10	10	-	40
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	50	20	20	10	100
評価の特記事項	理解の達成度と問題解決への意欲を重視します。小テストなどで理解できないところを補足説明します。					
ICT活用	課題等への質疑応答。					
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク、グループで・ディスカッション					
課題に対するフィードバック	資料の集め方、まとめ方など研究発表の準備をサポートします。					
テキスト						
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション 吹奏楽の歴史 1 古代の管楽 [課題(復習)]概要の確認(4H)					
2	バロック時代から古典派の時代での管楽器、管楽合奏 [課題(復習)]概要の確認(4H)					
3	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品 アメリカの吹奏楽の作曲家と作品課題(予習、復習)](4H)					
4	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品 アメリカの吹奏楽の作曲家と作品 20世紀激動の時代 課題(予習、復習)](4H)					
5	軍楽隊の歴史 [課題(予習、復習)](4H)					
6	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品 ベネルクスの音楽、吹奏楽 アドルフ・サククス サクソフォーンの誕生[課題(予習、復習)]オランダ、ベルギーの吹奏楽の作曲家と作品(4H)					
7	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品 フランス、スイス、スペインの音楽、吹奏楽[課題(予習、復習)]フランス、スペイン、スイスの吹奏楽の作曲家と作品(4H)					
8	諸外国の吹奏楽の作曲家と作品 1800年以降のドイツ、オーストリア、チェコ[課題(予習、復習)]ドイツ、オーストリア、ハンガリー、チェコの吹奏楽の作曲家と作品(4H)					
9	国内の吹奏楽の作曲家と作品 日本の吹奏楽[課題(予習、復習)]日本の吹奏楽の作曲家と作品(4H)					
10	吹奏楽合奏教本について：1. 3Dバンド・ブック[課題(予習、復習)]3Dバンド・ブックの概要の確認(4H)					
11	吹奏楽合奏教本について：2. 3Dバンド・ブック[課題(予習、復習)]3Dバンド・ブックの概要の確認(4H)					
12	合奏教本について JBCバンドスタディ					
13	合奏教本について JBCバンドスタディ その2					
14	学校、社会人などアマチュア吹奏楽団の運営方法について：1. 規約[課題(予習、復習)]学んだことの復習(4H)					
15	学校、社会人などアマチュア吹奏楽団の運営方法について：2. 組織[課題(予習、復習)]学んだことの復習(4H)					
時間外での学修	時間外での学習は効率良く無理のないように取り組んでください。疑問点、新たに浮かんだ着眼点はいつでもメモを取り空き時間などを有効に活用し資料集めやまとめを行なってください。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	吹奏楽概論では広く吹奏楽に関わることを扱っていきます。作曲家や作品についての知見は吹奏楽検定などでも問われています。研究対象の資料については書籍、インターネット、CD、DVDなど幅広く活用してください。授業内容に留まらず質問は積極的に行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。					

【3S5S110】吹奏楽概論		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	小林 聡					
資格・制限等	Wコース必修					
実務家教員	大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年					
授業方法	講義を中心に、ディスカッションも取り入れながら授業を行います。吹奏楽における記譜法、編曲法、楽曲の様式など楽譜との関わりを講義形式で説明していきます。編曲の課題を実際に行いながら移調、楽器の役割を理解します。時代ごとの様式を研究しその演奏方法の違いを学修します。					
到達目標	知識・理解	吹奏楽における記譜法を理解する。時代ごとのスタイルの違いを知る。				
	思考・判断・表現	様々なスタイルの楽曲に対して的確な判断ができるようになるために楽譜を読み解く方法を学ぶ。				
	技能	各楽器の特徴を掴み記譜法を適切に扱えるようになる。				
	関心・意欲・態度	自ら題材を選び意欲的に学習を進めながら吹奏楽、音楽全般に携わることへの幸福度を高め、社会貢献へのステップとする。				
授業内容	吹奏楽の記譜法、編曲法、時代ごとの様式を学修します。吹奏楽における楽器の役割を理解し、基本的な知識を身につけます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	50	10	20	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	50	10	20	20	100
評価の特記事項	理解の達成度と問題解決への意欲を重視します。小テストなどで理解できないところを補足説明します。					
ICT活用	課題等への質疑応答。					
アクティブ・ラーニングの活用	理解度を高めるための小テスト。移調、編曲などの実施。					
課題に対するフィードバック	作成した編曲楽譜のチェック、アドバイスをを行います。					
テキスト						
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション、吹奏楽の総譜において各楽器がどのように扱われるか、スコア全体の概要を理解します。吹奏楽で使われる楽器フルート、ピッコロ[課題(復習)]学んだことの復習(4H)					
2	吹奏楽で使われる楽器 オーボエ属。[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
3	吹奏楽で使われる楽器 ファゴット属[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
4	吹奏楽で使われる楽器 クラリネット属[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
5	吹奏楽で使われる楽器 サクソフォン属[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
6	吹奏楽で使われる楽器 ホルン[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
7	吹奏楽で使われる楽器 トランペット、コルネット[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
8	吹奏楽で使われる楽器 トロンボーン[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
9	吹奏楽で使われる楽器 ユーフォニアム、チューバ[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
10	吹奏楽で使われる楽器 打楽器1[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
11	吹奏楽で使われる楽器 打楽器2、その他の楽器[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
12	吹奏楽で使われる楽器 その他の楽器[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
13	様々な舞曲1 舞曲の様式とリズムを理解します。[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
14	様々な舞曲2 舞曲の様式とリズムを理解します。[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
15	様々な舞曲3 舞曲の様式とリズムを理解します。[課題(復習)]学んだことの復習 移調の練習(4H)					
時間外での学修	授業で配る資料をもとに振り返りを行なってください。新たに見つかった疑問点は次の時間の質問事項としましょう。【この科目で求められる望ましい授業外での総学修時間60時間】					
受講学生へのメッセージ	吹奏楽概論では広く吹奏楽に関わることを扱っていきます。授業内容に留まらず質問は積極的に行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。					

【3R6B201】リペア基礎 A		音楽総合学科		1年前期		
		3単位	必修	演習	90時間	
教員	松永 幸宏・松岡 龍					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年					
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストなどを入れながら、木管楽器の基本的なリペア技術、基礎的な構造知識が身に付け、問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。					
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することができる。				
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。				
	技能	各木管楽器の修理箇所的確な技能を持って対応する。				
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心・興味を持ち、自らが率先して学修することができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取り扱い方を学んでいきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	15	-	-	-	15
	実技試験	-	30	40	-	70
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	15	30	40	15	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）					
アクティブ・ラーニングの活用	なし					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。					
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	必要な資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の進め方、工具の確認、使用方法について説明 [課題(復習)]工具の使い方、名称の復習(1h)					
2	工具の加工、商品知識 [課題(復習)]加工技術の復習(3h)					
3	クラリネットの初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用方法についての説明も行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立(2h)					
4	クラリネットの基礎実習 連絡バランス調整及び、タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換(4h)					
5	フルート初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用方法についての説明も行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立(2h)					
6	フルートの基礎実習 タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換(4h)					
7	フルートの基礎実習 タンポ交換、連絡バランス調整 [課題(復習)]学んだタンポ交換(4h)					
8	サクソフォンの初歩実習 キイ分解組み立てを行う事で、構造やキイ名称を学修する。また、工具の使用方法についても説明を行う。 [課題(復習)]学んだ分解・組立(2h)					
9	サクソフォンの基礎実習 タンポ交換手順 [課題(復習)]学んだタンポ交換(4h)					
10	サクソフォンの基礎実習 タンポ交換手順、連絡バランス調整 [課題(復習)]学んだタンポ交換(4h)					
11	クラリネットの基礎実習 ジョイントコルク交換 刃物等を使用するため、作業について細かく説明を行う。 [課題(復習)]学んだジョイントコルク交換(3h)					
12	クラリネットの基礎実習 全体調整(パネ圧、開き等の確認) [課題(復習)]学んだバランス調整(4h)					
13	フルートの基礎実習 ヘッドコルク交換、反射板位置確認、 [課題(復習)]学んだヘッドコルク交換、反射板位置(3h)					
14	フルートの基礎実習 全体調整(パネ圧、開き、アソビの取り方等) [課題(復習)]学んだバランス調整(4h)					
15	前期木管楽器復習演習 木管楽器全般について復習を行い、未達成な項目を解消する。(1h)					

時間外での学修	<p>授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。 また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。 特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解をすることが上達への近道です。 板書は、ルーズリーフなどに書き込むと各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。オフィスアワーは、毎週月曜日授業後 F201教室で行います。</p>

【3R6S202】リペア基礎 B		音楽総合学科		1年後期		
		3単位	必修	演習	90時間	
教員	松永 幸宏・松岡 龍					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年					
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布プリントなどを取り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して総合的なリペア技術を学修し問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。					
到達目標	知識・理解	各木管楽器のメーカーによるキシステムの違い（特別講義で解説します）を理解する。				
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考え作業を組み立てる。				
	技能	各木管楽器のリペア箇所に応じた適切な技能を持って対応する。				
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関する情報、他社系のリペア手段など興味を持って、自らが率先して学修する。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	前期で学んだ木管楽器（クラリネット、フルート、サクソフォン）の基礎的な実習を更に拡大してリペアを行う事によって目指す品質はどう言ったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等使い方を理解したと思いますが、より安全な作業を行うには、どうしたら良いかを考えながら学んでいきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	15	-	-	-	15
	実技試験	-	30	40	-	70
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	15	30	40	15	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）					
アクティブ・ラーニングの活用	なし					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。					
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	必要な資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	サクソフォンの基礎実習 ネットコルク交換 [課題(復習)]学んだネットコルク交換(3h)					
2	サクソフォンの基礎実習 全体調整(テーブルキー)タンポ交換 [課題(復習)]学んだバランス調整(3h)					
3	クラリネットの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)					
4	クラリネットの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)					
5	フルートの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)					
6	フルートの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)					
7	サクソフォンの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)					
8	サクソフォンの総合実習 タンポ交換、調整復習 [課題(復習)]学んだ全体調整(3h)					
9	クラリネットの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)					
10	クラリネットの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)					
11	フルートの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)					
12	フルートの総合実習 全タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)					
13	サクソフォンの総合実習 部分タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)					
14	サクソフォンの総合実習 部分タンポ交換、全体調整 [課題(復習)]総合的な復習(3h)					
15	クラリネット全タンポ交換、全体調整、ジョイントコルク交換 [課題(復習)]総合的な復習(3h)					
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間】					

受講学生への
メッセージ

基本手順をしっかり身につけ2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。
オフィスアワーは、授業後F201教室で行います。

【3R6B203】リペア基礎 A		音楽総合学科		1年前期			
		4単位	必修	演習	120時間		
教員	松永 幸宏・松岡 龍						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年						
授業方法	全体での実技を中心として、講義、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的な作業動作、基本的な知識、技能が身に付け問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し、基礎的な管楽器の状態を把握することができる。					
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断できる。					
	技能	各管楽器の修理箇所到的確な技能を持って対応する。					
	関心・意欲・態度	管楽器のみならず、吹奏楽等で使用される楽器について関心や興味を持って、自らが率先して知識向上に向け学修する。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず広角的なアプローチから、機能、構造を理解して、基礎となるリペア技術を学修する。安全な作業を十分に理解して、工具の適切な使用方法を学び、リペアに必要な基本動作、扱い方を身につけ、基礎的な知識、技能を習得する。正確性、効率性、商品知識や接客など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	15	-	-	55
	実技試験		-	-	30	-	30
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		40	15	30	15	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
アクティブ・ラーニングの活用	なし						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	工具の加工 ヤスリ掛け実習 [課題(復習)]学んだヤスリ掛け(4h)						
2	工具の加工 ヤスリ掛け実習 [課題(復習)]学んだヤスリ掛け(4h)						
3	管楽器基礎知識 メンテナンス用品の取り扱い他 (DVD使用) [課題(復習)]学んだ取り扱い方法(4h)						
4	管楽器基礎知識 メンテナンス用品の取り扱い他 (DVD使用) [課題(復習)]学んだ取り扱い(4h)						
5	クラリネット、トランペット基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(4h)						
6	管楽器製造方法 使用材料や加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の材料、加工法(4h)						
7	管楽器製造方法 使用材料、表面仕上げ、加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の表面処理(4h)						
8	フルート、ホルン基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(4h)						
9	管楽器製造方法 使用材料、表面仕上げ、加工法 [課題(復習)]学んだ管楽器の製造工程(4h)						
10	管楽器以外の楽器類 [課題(復習)]学んだ各種楽器の種類(4h)						
11	サクソフォン、トロンボーン基礎確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(4h)						
12	主要管楽器メーカー特別講義 [課題(復習)]学んだ特別講義内容(4h)						
13	楽器店での管楽器リペア 先輩達の進路を交えて [課題(復習)]学んだ現場での修理(4h)						
14	工房や管楽器専門店での管楽器リペア 先輩達の進路を交えて [課題(復習)]学んだ楽器店における修理(4h)						
15	前期総合基礎演習 [課題(復習)]学んだ修理(4h)						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習し、基礎を身につけてください。 また、日頃から多くの楽器類を見る触れるなどして、様々な楽器を知って下さい。 特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への メッセージ	全員が初めて学ぶことばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持って取り組んで下さい。分からないことを後回しにしないで、直ぐに質問し理解することが上達への近道です。 オフィスアワーは授業後 F201教室で行います。
-----------------	--

【3R6S204】リペア基礎 B		音楽総合学科		1年後期		
		4単位	必修	演習	120時間	
教員	松永 幸宏・松岡 龍					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年					
授業方法	全体での実技を中心とし、講義、DVD、小テストなどを入れながら、管楽器の基本的なリペア技能、基本的な知識等を身に付け、問題解決できるよう授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。					
到達目標	知識・理解	各管楽器の仕組み、構造を理解し基礎的な楽器の状態を把握する事ができる。				
	思考・判断・表現	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を見つけ解決法を判断できる。				
	技能	各管楽器の状態を把握し、リペア箇所を自らの技能で問題解決する。				
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味、関心をもち自らが率先して学修することができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	木管楽器、金管楽器の区分にとらわれず、多角的なアプローチから、仕組みや構造を理解し、基礎となるリペア技能を学修する。安全な作業を十分に理解し、適切な工具の使用法を学び、リペア技能に必要な基本動作や扱い方を身に付ける、基本的な知識や技能の習得。正確性、効率性、商品知識、接客など現場での内容も視野に入れて授業を行っていきます。実技以外で、楽器店状況や工房、製造メーカーの現状等についても講話を行っていきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	40	15	-	-	55
	実技試験	-	-	30	-	30
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	40	15	30	15	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）					
アクティブ・ラーニングの活用	なし					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。					
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	必要な資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(4h)					
2	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(4h)					
3	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(4h)					
4	主要楽器メーカー講習 [課題(復習)]学んだメーカー講習内容(4h)					
5	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(4h)					
6	管楽器専門知識 [課題(復習)]学んだ専門知識(4h)					
7	特殊工具を使用するリペア [課題(復習)]学んだ特殊工具使用方法(4h)					
8	総合確認テスト [課題(復習)]学んだ確認テスト内容(4h)					
9	楽器店での管楽器リペア [課題(復習)]学んだリペア業務の内容(4h)					
10	楽器店での管楽器リペア [課題(復習)]学んだ店頭でのリペア業務(4h)					
11	楽器店での管楽器リペア [課題(復習)]学んだ学校販売でのリペア業務(4h)					
12	主要管楽器メーカー特別講義 [課題(復習)]学んだメーカー特別講義内容(4h)					
13	後期総合基礎復習 [課題(復習)]学んだ時間短縮及び苦手修理(4h)					
14	後期総合基礎復習 [課題(復習)]学んだ時間短縮及び苦手修理(4h)					
15	後期総合基礎復習 [課題(復習)]時間短縮及び苦手修理(4h)					
時間外での学修	繰り返し練習することによって精度、時間短縮に心がけてください。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等で、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					

受講学生への
メッセージ

基本手順をしっかり身につけ、2年次への準備をしっかりして下さい。
オフィスアワーは授業後 F201教室で行います。

【3R6B205】リペア基礎 A		音楽総合学科		1年前期			
		3単位	必修	演習	90時間		
教員	松永 幸宏・松岡 龍						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年						
授業方法	全体での実習を中心とし、講義や小テストを入れながら、金管楽器の基本的なリペア技術、基本的な構造知識が身につく授業にしていきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組み、構造を理解し、基本的な管楽器の状態を把握することができる。					
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態を把握し、修理箇所を見つけ、原因を理解した後、解決方法を判断する。					
	技能	各金管楽器の修理箇所的確な技能を持って対応する。					
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関して関心、興味を持ち、自らが率先して学修することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の仕組み・構造を理解し、基礎となるリペア技術を学ぶ。安全な作業を十分に理解し、工具の適切な使用方法を学び、リペア技術に必要な基本となる動作や取り扱いを学んでいきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		15	-	-	-	15
	実技試験		-	30	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	30	40	15	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
アクティブ・ラーニングの活用	なし						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト						
参考書・教材	必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	工具製作 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
2	トランペットの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
3	トランペット基礎実習 ピストン調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
4	トランペット基礎実習 抜き差し管調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
5	ハンダ付け（溶接）初歩実習 ハンダ及びペースト等材料に対する知識から、溶接作業手順について説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
6	ハンダ付け（溶接）初歩実習 ハンダ及びペースト等材料に対する知識から、溶接作業手順について説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
7	ホルンの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、使用工具の説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
8	ホルンの基礎実習 ロータリー系（紐）交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
9	ホルンの基礎実習 ロータリー調整、使用工具説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
10	トロンボーンの初歩実習 基礎知識、取り扱い方法、使用工具等説明 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
11	トロンボーンの基礎実習 ウォーターキー分解組み立て、コルク交換、スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
12	トロンボーンの基礎実習 スライド曲がり修正 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
13	ハンダ付け基礎実習 ハンダ分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
14	ハンダ付け基礎実習 ハンダ分解組み立て 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
15	前期金管楽器基礎復習 金管楽器全般についての復習を行い、未達成な項目を解消する。 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）						
時間外での学修	授業で学んだ手順をしっかりと復習して身につけましょう。また、日頃から多くの楽器を見る、触るなどを行い、さまざまな楽器を知って下さい。特に経験楽器については、よく観察しておいて下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間】						

受講学生への メッセージ	全員が初めて学ぶ事ばかりです。失敗を恐れずに常に興味、関心を持ち続けて取り組んで下さい。分からない事は、後回しにしないで、直ぐに質問し理解することが上達への近道です。板書は、ルーズリーフなどに書き込むと各楽器ごとに纏めることが出来ますので活用して下さい。オフィスアワーは、授業後 F201教室で行います。
-----------------	--

【3R6S206】リペア基礎 B		音楽総合学科		1年後期		
		3単位	必修	演習	90時間	
教員	松永 幸宏・松岡 龍					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年、松岡：楽器店修理販売職・7年					
授業方法	実習がメインとなり、教科書や配布物、DVD、各社カタログ等を探り入れながら、前期授業で学んだ内容をさらに拡大して、総合的なリペア技術を学修します。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。					
到達目標	知識・理解	各金管楽器のメーカーによる構造等の違いが理解できる。（特別講義等で解説します。）				
	思考・判断・表現	リペア作業をするにあたって、原因を究明し対処法を考えて作業ができる。				
	技能	各楽器のリペア箇所に、適切な技能を持って対処ができる。				
	関心・意欲・態度	管楽器全般に関する情報、他社系のリペア手法など興味を持って、自らが率先して学修ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	前期で学んだ金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）の基礎的な実習をさらに拡大して、リペアを行うことによって目指す品質はどういったものなのかを、各楽器で十分に理解する。前期で、工具等の使用方法を理解したと思いますが、より安全に作業を行うにはどうしたら良いかを考えながら学んでください。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	15	-	-	-	15
	実技試験	-	30	40	-	70
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	15	30	40	15	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況で評価します。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）					
アクティブ・ラーニングの活用	なし					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。					
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下2巻』ヤマハ株式会社(15,400円) リペア科目共通テキスト					
参考書・教材	必要な資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	トランペット基礎実習 抜き差し管へこみ修正、ピッチ、平行度調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
2	トランペット基礎実習 抜き差し管へこみ修正、ピッチ、平行度調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
3	トランペット基礎実習 ハンダ分解組み立て 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
4	トランペット基礎実習 ハンダ分解組み立て 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
5	ホルンの基礎実習 ロータリー調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
6	ホルンの基礎実習 ロータリー調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
7	ホルンの基礎実習 レバー位置、ロータリー系（紐）のテンション調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
8	ホルンの基礎実習 レバー位置、ロータリー系（紐）のテンション調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
9	トロンボーンの基礎実習 スライド調整、ウォーターキーコルク交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）					
10	トロンボーンの基礎実習 スライド調整・スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）					
11	金管楽器基礎実習 マウスピース固着・マウスピースシャンク変形修正・抜き差し管固着修正 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）					
12	トランペットの基礎実習 ピストン固着修正・ハンダ付け 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）					
13	ホルンの基礎実習 ロータリー固着修正・ロータリー系（紐）交換・全体調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）					
14	トロンボーンの基礎実習 スライド調整・ウォーターキーコルク交換・スライドストップフェルト交換 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）					
15	ホルンの基礎実習 ロータリー調整・ロータリー系（紐）交換・レバー位置修正・全体調整 【課題（復習）】学んだ内容の復習（3h）					
時間外での学修	反復練習をすることによって精度、時間短縮を心がけよう。 また、日頃から多くの楽器を見る触れる等を行い、様々な楽器を知って下さい。特に自身の楽器については、よく観察しておいて下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45時間】					

受講学生への
メッセージ

基本手順をしっかり身につけ2年次への準備をしよう。分からない事は1年次で解決すること。
オフィスアワーは、授業後 F201教室で行います。

【3R6B218】楽器奏法		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	佐溝 佳奈					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業方法	演奏形式は個人レッスンを中心に進めます。各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。質問等は授業時や授業後に受け付けます。					
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造を理解し、その説明ができる。				
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。				
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。				
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。				
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するべきがなくては、プロの技術者とは呼ばれません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	-	60	-	60
	各楽器の修得力	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項						
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	特になし					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスをを行います。					
テキスト						
参考書・教材	楽譜等その都度配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [課題(予習)]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)					
2	楽器1レッスン1:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
3	楽器1レッスン2:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
4	楽器1レッスン3:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
5	楽器1レッスン4:グループA(Fl) B(Cl) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
6	楽器2レッスン1:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
7	楽器2レッスン2:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
8	楽器2レッスン3:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
9	楽器2レッスン4:グループA(Cl) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(Fl) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(予習)]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)					
10	楽器3レッスン1:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
11	楽器3レッスン2:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
12	楽器3レッスン3:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)					
13	楽器3レッスン4:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(Fl) F(Cl) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の復習(1～2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 【課題（復習・準備）】レッスン楽器の練習(1~2h)
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 【課題（復習・準備）】レッスン楽器の練習(1~2h)
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンにあたっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。

【3R6S219】楽器奏法		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	佐溝 佳奈					
資格・制限等	特になし					
実務家教員						
授業方法	演奏形式で個人レッスンを中心に進めます。楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。質問等は授業時や授業後に受け付けます。					
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。				
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。				
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。				
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。				
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼ばれません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	-	60	-	60
	各楽器の修得力	10	10	-	-	20
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項						
I C T活用						
アクティブラーニングの活用	個人レッスンを中心に進めます。					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスをを行います。					
テキスト						
参考書・教材	楽譜等その都度配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	楽器4レッスン1:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題・復習]レッスン楽器の練習(1~2h)					
2	楽器4レッスン2:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・復習]レッスン楽器の練習(1~2h)					
3	楽器4レッスン3:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h)					
4	楽器4レッスン4:グループA(Tp) B(Hr) C(Tb) D(Fl) E(Cl) F(Sax) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]次回レッスン楽器の練習(1~2h)					
5	楽器5レッスン1:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h)					
6	楽器5レッスン2:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h)					
7	楽器5レッスン3:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h)					
8	楽器5レッスン4:グループA(Hr) B(Tb) C(Fl) D(Cl) E(Sax) F(Tp) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]次回レッスン楽器の練習(1~2h)					
9	楽器6レッスン1:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h)					
10	楽器6レッスン2:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h)					
11	楽器6レッスン3:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h)					
12	楽器6レッスン4:グループA(Tb) B(Fl) C(Cl) D(Sax) E(Tp) F(Hr) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題・準備]次回レッスン楽器の練習(1~2h)					
13	後期不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h)					
14	後期不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
15	後期不得意楽器のレッスン3 学期末実技試験対策 [課題・準備]レッスン楽器の練習(1~2h)
時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。

【3R6B122】管楽器・業界研究		音楽総合学科		1年後期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	松永 幸宏					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松永：楽器店修理販売職・19年					
授業方法	講義形式で行います。より理解を深めるため、カタログ等を使用します。一方的で受け身な授業にならないように受講学生の発言、発表を求められます。例えば高校の吹奏楽活動等で担当した楽器に関する情報（担当動機、使用メーカー等）を発表してもらい全員で共有します。					
到達目標	知識・理解	管打楽器の歴史、発音原理、構造、材質等の基礎知識、各楽器ごとの特徴を理解できる。				
	思考・判断・表現	十分な理解を得られる伝え方を研究、工夫しコミュニケーションをとることができる。				
	関心・意欲・態度	管打楽器及び関連商品の幅広い知識と新しい情報に敏感であり、より専門的な情報収集に努めることができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器業界で即戦力として通用する人材に必要な、豊富でより専門的な知識の修得を行います。 ・お客様に信頼され、支持され、地域に貢献することができる人間性豊かな人材の育成をします。 					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	70	20	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	70	20	-	10	100
評価の特記事項	受講態度は学修の取り組み、意欲等の状況で評価します。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）					
アクティブ・ラーニングの活用	なし					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。					
テキスト	『管楽器価格一覧表2024年度版』株式会社ミュージックトレード社(1,100円) 『打楽器価格一覧表2024年度版』株式会社ミュージックトレード社(990円)					
参考書・教材	管・打楽器価格一覧表、楽器別カタログを使用します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス この授業で学ぶこと、楽器の基礎知識、楽器ごとの基礎知識 [課題(復習)]学んだことの復習。(3~5h)					
2	管楽器の基礎知識 楽器の条件、歴史、発音原理による分類、楽器の分類と種類、構造、管体材料について。 [課題(復習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)					
3	管楽器の基礎知識 バルブとスライド、円筒管と円錐管、トーンホール、キイメカニズムについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)					
4	フルート 各国での名称、歴史、種類、キイタイプ、管体材料、トーンホール、ヘッド、ハンドメイド、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)					
5	クラリネット 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、音域の名称と特徴、リード・リガチャー・マウスピースの3点セットの重要性について、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)					
6	サクソフォン 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、ネック、リード、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだ事の復習と予習。(3~5h)					
7	オーボエ 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)					
8	ファゴット 各国での名称、歴史、種類、キイシステム、管体材料、リード、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)					
9	トランペット 各国での名称、歴史、種類、管体材料、バルブの種類、支柱と響き、ボアサイズ、トリガー、ベル、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)					
10	フレンチホルン 各国での名称、歴史、調性による分類、管体材料、2つの業界スタンダードタイプによる分類、デタッチャブル、ゲシュトップ、ベル、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(1h)					
11	トロンボーン 各国での名称、歴史、種類、管体材料、スライド、ロータリーバルブの種類、ボアサイズ、ベル、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
12	ユーフォニアム・チューバ 各国での名称、歴史、種類、管体材料、パルプの種類、管の巻き方、コンベンセイティングシステム、メーカーについて。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)
13	管楽器の基礎知識 サクソルン族 歴史、種類、イギリス式金管バンド編成について。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)
14	打楽器 コンサート打楽器、皮膜打楽器、音板打楽器の分類、名称、歴史、種類、構造。 [課題(復習/予習)]学んだことの復習と予習。(3~5h)
15	リペアについて リペア業務 後期試験準備 [課題(復習)](3~5h)
時間外での学修	最新情報を入手する習慣をつけましょう。カタログ、専門誌、インターネットなどで研究し、楽器本体は学生同士で研究しましょう。学生時代の特権です。 【この科目での望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	全ての楽器に興味を持ってください。そこから得た知識は楽器業界で仕事する上で必ず活かされます。全ての楽器のオールマイティーな知識が求められます。 オフィスアワー：授業後は教室で対応します。

【3S9B101】音楽総合特講		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	松永 幸宏・菅田 文子・横井 香織・森岡 佐和・鬼頭 加奈						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業方法	基本は講義形式ですが、内容により、演習形式でも行います。他の受講生と協力して、受講生同士の討論やグループワークなどを行う場面もあります。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	音楽に関する分野の学びとともに社会人に求められる知識についても理解することができる。					
	思考・判断・表現	音楽に関する分野の学びや社会的・職業的自立に向けた進路選択のための課題解決などに必要な思考・判断・表現力を身に付けることができる。					
	技能	社会人・職業人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能について、その基礎を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	自己の進路目標や状況に応じて、意欲を持って主体的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	将来の就職に向けて、音楽総合学科卒業生、教員の他外部講師を招いて職業についての講義を行います。具体的な進路について自分で調べ、講師やクラス内で意見交換をすることにより、今後どのような学修をすべきかを明確にすることが目的です。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	学修記録ノート		30	30	20	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項	学修ノートの記入状況と受講態度で総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終評価を受ける資格がなくなります。フィードバックとして後期開講「音楽総合特講」の第1週目に総評を行います。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	それぞれの講義担当者による						
テキスト							
参考書・教材	授業で指示します。その他必要な資料等は授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、各コースの可能な職業、本学卒業生の進路についての説明（学科） [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
2	将来の職業についてグループワーク（学科） [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
3	職業を知る（1）公務員：自衛隊 [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
4	職業を知る（2）公務員：警察 [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
5	職業を知る（3）公務員：消防 [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
6	職業を知る（4）職業演奏家：管打楽器・ピアノ・電子オルガン [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
7	職業を知る（5）講師：ピアノ・電子オルガン [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
8	職業を知る（6）講師：管楽器 [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
9	職業を知る（7）楽器店：営業・販売・リペア・音楽教室・その他 [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
10	職業を知る（8）音楽療法：福祉施設・病院等で働く音楽療法士について [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
11	職業を知る（9）製造・メーカー・卸し [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						
12	職業を知る（10）一般職：吹奏楽団を有する企業・その他 [課題(復習・準備)] 興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。（3～5h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	職業を知る(11)一般職：地域企業・その他 【課題(復習・準備)】興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)
14	レポート作成：自分のなりたい職業について調べる。どのような仕事に就きたいか、そのためには何が必要かを調べてレポートにまとめ提出する。 【課題(復習・準備)】興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)
15	レポート講評：各コースアカデミックアドバイザーによりレポートの講評を行う(学生名は出さない)。 まとめ 【課題(復習・準備)】興味のある職業についての情報を収集し、理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)
時間外での学修	自分の興味のある仕事について自主的に調べ、講師に質問できるように準備をしてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	自ら積極的に学ぼうとする意識をしっかりと持って受講してください。 * 授業の順序や内容は、講師の都合で変更されることがあります。オフィスアワーは、各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。

【3S9S102】音楽総合特講		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	松永 幸宏・菅田 文子・横井 香織・森岡 佐和・鬼頭 加奈						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業方法	基本は講義形式ですが、内容により、演習形式でも行います。他の受講生と協力して、受講生同士の討論やグループワークなど行う場面もあります。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	社会人に求められる知識について理解することができる。					
	思考・判断・表現	社会的・職業的自立に向けた進路選択のための課題解決などに必要な思考・判断・表現力を身に付けることができる。					
	技能	社会人・職業人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能について、その基礎を身に付けることができる。					
	関心・意欲・態度	自己の進路目標や状況に応じて、意欲を持って主体的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	社会人・職業人に求められる知識や実践的な基礎的・汎用的能力から一般的な社会常識なども含めて学修します。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	学修記録ノート		30	20	30	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	20	30	20	100
評価の特記事項	学修ノートの記入状況と受講態度で総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終評価を受ける資格がなくなります。フィードバックとして各アカデミック・アドバイザーから総評を行います。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	グループ・ディスカッション、グループワーク						
課題に対するフィードバック	それぞれの講義担当者による						
テキスト							
参考書・教材	授業で指示します。その他必要な資料等は授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 現代社会のしくみ：雇用制度・就職状況など（学生・キャリア支援課） 【課題(復習)】 学修内容について理解を深める。(1h)						
2	働く環境：働き方の種類・福利厚生・求人票の見方など（学生・キャリア支援課） 【課題(復習)】 学修内容について理解を深める。(1h)						
3	自己分析(1) 【課題(復習・準備)】 自己についての情報を収集し、自己理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
4	自己分析(2) 【課題(復習・準備)】 自己についての情報を収集し、自己理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
5	自己分析(3) 【課題(復習・準備)】 自己についての情報を収集し、自己理解を図るとともに、次の時間に向けて準備を行う。(3~5h)						
6	書類作成の基本・作法（就職試験に必要な書類について）（学生・キャリア支援課） 【課題(復習・発展)】 履歴書の書き方を確認し、自己のライフプランを設計する。(3~5h)						
7	履歴書、エントリーシートの書き方(1)：自分の長所、アピールポイントを考える。グループワーク。 （学生・キャリア支援課） 【課題(復習・発展)】 自己の長所を再確認し、自己アピールを字数に応じて作成する。(3~5h)						
8	履歴書、エントリーシートの書き方(2)：正しい形式で書く。（学生・キャリア支援課） 【課題(復習・発展)】 エントリーシートの書き方を確認し、自己の進路希望職種を確認する。(3~5h)						
9	社会人に向けて(1)：マナー・立ち居振る舞い・名刺の渡し方 他(外部講師) 【課題(復習)】 学修内容について理解を深める。(1h)						
10	社会人に向けて(2)：接客接遇(学科) 【課題(復習)】 学修内容について理解を深める。(1h)						
11	社会人に向けて(3)：電話対応の仕方(学科) 【課題(復習)】 学修内容について理解を深める。(1h)						
12	面接(1)：基本(外部講師) 【課題(復習)】 学修内容について理解を深める。面接の基本事項をまとめる。(3~5h)						
13	面接(2)：個人面接ロールプレイ(外部講師・学科) 【課題(復習)】 学修内容について理解を深める。また、個々に個人面接の課題に取り組む。(3~5h)						
14	面接(3)：集団面接ロールプレイ(外部講師・学科) 【課題(復習)】 学修内容について理解を深める。また、個々に集団面接の課題に取り組む。(3~5h)						
15	まとめ・2年生に向けて(学科) 【課題(復習)】 全講義内容を振り返り、個々に省察し、苦手な分野の克服に努める。(3~5h)						
時間外での学修	各回のテーマについて関心を持ち、授業後は配布プリント等を復習し理解を深めてください。分からない点、疑問点は調べたり質問するなどして解決してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への
メッセージ

自ら積極的に学ぼうとする意識をしっかりとって受講してください。
* 授業の順序や内容は、進度等の都合で変更されることがあります。オフィスアワーは、各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。

【3S8B206】ヴォーカル		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	五島 由美子					
資格・制限等	P・Or・MTコース必修					
実務家教員	声楽家49年、声楽指導46年、合唱指導32年					
授業方法	グループレッスンを中心として、お互いの声を聴きながら学びます。					
到達目標	知識・理解	歌唱する上での、作曲家の意図・言葉の表現が出来る。				
	思考・判断・表現	言葉の由来を理解した上で、音楽の理解が出来る。				
	技能	各自の歌唱技術の問題点を速やかに理解できる。				
	関心・意欲・態度	各自の課題に関心を持ち、積極的に努力して学習に取り組むことが出来る。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	歌唱を通して音楽の表現力を身に着ける授業です。 前期はイタリア歌曲を取り上げます。正しい発声を身に付けて、表現力を高めていきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	試験	20	25	25	-	70
	発表・レポート	5	5	10	-	20
	受講態度(学習や提出物)	-	-	-	10	10
	合計(点)	25	30	35	10	100
評価の特記事項	ICT活用					
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして個人個人の発声の問題点を授業で解決します。					
テキスト	『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『イタリア歌曲集(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 手持ち可					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス ヴォーカルの授業への質問・要望等に応えます。又、発声の仕組み、発声練習方法等を学びます。 (課題) 学んだ発声について毎日発声練習をし、声の出し方と体の結びつきを練習してください。 1h					
2	イタリア歌曲1 イタリア語を学ぶ。 Sebben crudele コンコーネ1 (課題) イタリア語に慣れる。読む力を付けること。 1h					
3	イタリア歌曲2 母音と子音を学ぶ。 Sebben crudele コンコーネ2 (課題) 母音唱をする事により響きの位置を確認する。 1h					
4	イタリア歌曲3 ハミングと母音を学ぶ。 Sebben crudele コンコーネ3 (課題) 各自の課題を整理する。 1h					
5	イタリア歌曲4 口の中の開け方を学ぶ。 Caro mio ben コンコーネ4 (課題) 鏡を見て口の中の開け方と出す音のつながりを知る。 1h					
6	イタリア歌曲5 高音・中音・低音の響きを統一する。 Caro mio ben コンコーネ5 (課題) 全ての音の響きを確認する。 1h					
7	イタリア歌曲6 学習成果発表。 Caro mio ben コンコーネ6 (課題) 学習成果発表後の課題をまとめる。 1h					
8	イタリア歌曲7 子音の扱いについて学ぶ。 Nel cor piu non mi sento コンコーネ7 (課題) 子音の練習。 1h					
9	イタリア歌曲8 装飾音の扱いについて。 Nel cor piu non mi sento コンコーネ8 (課題) 装飾音の練習。 1h					
10	イタリア歌曲9 休符・アクセントについて Nel cor piu non mi sento コンコーネ9 (課題) 課題曲の歌詞の朗読。 1h					
11	イタリア歌曲10 音程に気を付ける。 Per la gloria コンコーネ10 (課題) 跳躍音程の練習をする。 1h					
12	イタリア歌曲11 舌の位置と訓練。 Per la gloria コンコーネ11 (課題) 巻き舌 舌の位置を鏡を見ながら練習する。 1h					
13	イタリア歌曲12 Per la gloria コンコーネ12 (課題) イタリア歌曲についての総まとめをレポートする。 1h					
14	イタリア歌曲13 各自選曲した曲をレッスンする。個人レッスン コンコーネ13 (課題) 個人の課題と問題点を見つけ出し練習する。 1h					
15	イタリア歌曲14 各自の問題点を克服する。試演会 コンコーネ14 (課題) 前期試験に向けて各自の課題を整理する。 1h					
時間外での学修	毎日発声の練習をして下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	身体表現の授業ですから、健康維持に努めて下さい。 オフィスアワーは授業後教室で。					

【3S8S207】ヴォーカル		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	五島 由美子					
資格・制限等	P・Or・MTコース必修					
実務家教員	声楽家49年、声楽指導46年、合唱指導32年					
授業方法	グルーブレッスンの中で相互に他声を聴き合い、意見交換をする。					
到達目標	知識・理解	音楽の基礎的知識や、曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得することが出来る。				
	思考・判断・表現	音楽演奏や教育を行うにあたって、必要な理論を適切に理解し、相手の理解に応じて伝えることが出来る。				
	技能	各自の技術の問題点を速やかに理解できる。				
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションをとろうとする意欲がある。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	歌唱を通して、音楽の表現力を高める授業です。後期は日本歌曲とドイツ歌曲を取り上げます。それぞれの作曲家の意図をくみ取り、言葉と音楽の関係を交えて進めていきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	試験	20	25	25	-	70
	発表・レポート	5	5	10	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	25	30	35	10	100
	評価の特記事項	ICT活用				
アクティブ・ラーニングの活用	グルーブワーク					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして各項目終了時に個別に確認し指示をします。					
テキスト	『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『カンターレ』音楽之友社 『イタリア歌曲集(中声用)』全音楽譜出版社 手持ち可					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	日本歌曲1 浜辺の歌 イタリア歌曲との相違点を知る。 (課題) イタリア歌曲を学んだ発声を基本とした、日本語の発声を勉強する。				コンコーネ15	1h
2	日本歌曲2 浜辺の歌 日本語の発声について学ぶ。 (課題) 口の中を意識して日本語を読む練習をする。				コンコーネ16	1h
3	日本歌曲3 浜辺の歌 日本語の子音について学ぶ。 (課題) 浜辺の歌を暗譜で歌えるように歌い込む。				コンコーネ17	1h
4	日本歌曲4 早春賦 (課題) 曲の流れをつかむ為に、母音唱で練習する。				コンコーネ18	1h
5	日本歌曲5 早春賦 (課題) 言葉の意味を理解して歌う。				コンコーネ19	1h
6	日本歌曲6 早春賦 (課題) 早春賦を暗譜で歌えるように歌い込む。				コンコーネ20	1h
7	日本歌曲のまとめ 各自選曲した曲を発表し、感想を述べる。 (課題) 表現力を身に着けるべく歌い込むこと。				コンコーネ21	1h
8	ドイツ歌曲1 野ばら 音楽の流れを感じて歌う。 (課題) ドイツ語に慣れる。				コンコーネ22	1h
9	ドイツ歌曲2 野ばら ドイツ語の歌詞の意味を理解して歌う。 (課題) ドイツ語の歌詞を何度も読む。				コンコーネ23	
10	ドイツ歌曲3 野ばら 学習成果発表。 (課題) 相互に成果の発表をまとめて、次の目標を見つける。				コンコーネ24	1h
11	ドイツ歌曲4 歌の翼に 音楽の流れを感じて歌う。 (課題) ピアノの流れるようなメロディーに沿って歌う。				コンコーネ25	1h
12	ドイツ歌曲5 歌の翼に 言葉の意味を理解する。 (課題) ドイツ語独自の発音、イントネーションに注意して歌う。				コンコーネ26	1h
13	ドイツ歌曲6 歌の翼に 学習成果発表。 (課題) 相互に成果の結果を踏まえ、次の試演会に向ける。				コンコーネ27	1h
14	ドイツ歌曲7 各自選曲した曲を個人レッスンする。 (課題) 各自の課題を速やかに見出し、試演会に向ける。				コンコーネ28	1h
15	ドイツ歌曲8 1年間勉強してきた成果を発表し、試験に向ける。 (課題) 各自の成果を発表する試演会での課題を通して試験に向ける。				コンコーネ29	1h
時間外での学修	身体を鍛えて発声練習を毎日行うこと。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	身体表現の授業ですので、健康維持に努めて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。					

【3S8B210】ソルフェージュ		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MTコース必修						
実務家教員	声楽家49年、声楽指導46年、合唱指導32年						
授業方法	実技・実践を中心として基礎的な音楽知識を習得していきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身につけフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。					
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。					
	技能	音楽に専門家としての情報収集能力を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーションの能力がある。					
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションをとろうとする意欲がある。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	音楽を的確に表現する為の、音楽の基礎能力の育成・視覚・聴覚訓練をしていきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表		10	10	10	-	30
	筆記試験		30	30	-	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして項目別確認テストの後、返却時に解答の解説をします。						
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成社 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ソルフェージュについて(授業ガイダンス、ソルフェージュの理解と確認) [(課題(復習)) これまでに学んだことのあるソルフェージュについての質疑応答。]					コンコーネ1 (1~2h)	
2	コールユーブンゲン No.2 4 6 聴音 楽譜の書き方。 [(課題(復習)) コールユーブンゲン No.7 9 11の予習と No.2 4 6の復習。]					コンコーネ2 (1~2h)	
3	コールユーブンゲン No.7 9 11 聴音 拍の取り方 [(課題(復習)) コールユーブンゲン No.13 15 17の予習と No.7 9 11の復習。]					コンコーネ3 (1~2h)	
4	コールユーブンゲン No.13 15 17 聴音 休符の取り方 [(課題(復習)) コールユーブンゲン No.18の予習とNo.13 15 17の復習。]					コンコーネ4 (1~2h)	
5	コールユーブンゲンNo.18 聴音 到達度確認テストNo.18まで。 音符の書き方。 [(課題(復習)) コールユーブンゲン No.19 20の予習とNo.18の復習。]					コンコーネ5 (1~2h)	
6	コールユーブンゲンNo.19 20 聴音 新曲第1章 No.1~No.5 4/4拍子 [(課題(復習)) コールユーブンゲン No.23の予習とNo.19 20 新曲視唱の復習。]					コンコーネ6 (1~2h)	
7	コールユーブンゲンNo.23 聴音 新曲第1章 No.11~No.15 4/4拍子 [(課題(復習)) コールユーブンゲン No.24の予習とNo.23 既習曲の復習。]					コンコーネ7 (1~2h)	
8	コールユーブンゲンNo.24 聴音 新曲第1章No.21~No.25 3/4拍子 [(課題(復習)) コールユーブンゲンNo.25の予習とNo.24 既習曲の復習。]					コンコーネ8 (1~2h)	
9	コールユーブンゲンNo.25 聴音 新曲第1章 No.31~No.35 3/4拍子 [(課題(復習)) コールユーブンゲンNo.25までと 既習曲の復習。]					コンコーネ9 (1~2h)	
10	コールユーブンゲンNo.19~No.25 及び 新曲第1章No.41~No.45の到達度確認テスト [(課題(復習)) コールユーブンゲン No.26の予習と既習曲の復習。]					コンコーネ10 (1~2h)	
11	コールユーブンゲンNo.26 聴音 新曲第1章 No.111~No.115 6/8拍子 [(課題(復習)) コールユーブンゲンNo.27の予習とNo.26 既習曲の復習。]					コンコーネ11 (1~2h)	
12	コールユーブンゲンNo.27 聴音 新曲第1章 No.121~No.125 6/8拍子 [(課題(復習)) コールユーブンゲンNo.28の予習とNo.27 既習曲の復習。]					コンコーネ12 (1~2h)	
13	コールユーブンゲンNo.28 聴音 新曲第1章 No.131~No.135 全拍子 [(課題(復習)) コールユーブンゲンNo.29の予習とNo.28 既習曲の復習。]					コンコーネ13 (1~2h)	
14	コールユーブンゲンNo.29 聴音 新曲第1章 No.141~No.145 全拍子 [(課題(復習)) 既習曲の復習。]					コンコーネ14 (1~2h)	
15	コールユーブンゲンNo.29までの到達度確認テスト。新曲第1章 No.151~No.155 全拍子 [(課題(復習)) 既習の演習課題を復習しておく。]					コンコーネ15 (1~2h)	
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかり行うことがソルフェージュ上達を確かなものにします。 この科目で求める望ましい授業外での総学習時間; 15~30時間						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないように体調にも気を付けて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。						

【3S8S211】ソルフェージュ		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Or・MTコース必修						
実務家教員	声楽家49年、声楽指導46年、合唱指導32年						
授業方法	実技。実践を中心として基礎的な習得をしていきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身に付けフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。					
	思考・判断・表現	得られた知識を実際の音楽の現場に対応できるものにする。					
	技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。					
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通してコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	1年前期で習得した音楽を、更なる確に表現するための音楽的基礎能力の育成・聴覚訓練をしていきます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		10	10	10	-	30
	筆記試験		30	30	-	-	60
	受講意欲		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	I C T活用						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして項目別確認テストの後、各人に個別に指導します。						
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成社 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	コンコーネ16 コールユーブンゲンNo.30 新曲視唱第1章No.6~No.10 聴音 三声 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.31を予習し、No.30の復習をする。 1h						
2	コンコーネ17 コールユーブンゲンNo.31 新曲視唱第1章No.16~No.20 聴音 三声 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.32を予習し、No.31の復習をする。 1h						
3	コンコーネ18 コールユーブンゲンNo.32 新曲視唱第1章No.28~No.30 聴音 三声 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.33を予習し、No.32の復習をする。 1h						
4	コンコーネ19 コールユーブンゲンNo.33 新曲視唱第1章No.36~No.40 聴音 三声 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.34 No.35を予習し、No.33復習をする。 1h						
5	コンコーネ20 コールユーブンゲンNo.34 No.35 新曲視唱第2章No.1~No.10 聴音 三声開離 複旋律 到達度確認テスト (課題) コールユーブンゲンNo.36を予習し、No.34 No.35を復習する。 1h						
6	コンコーネ21 コールユーブンゲンNo.36 新曲視唱第2章No.11~15 聴音 三声開離 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.37の予習をし、No.36の復習をする。 1h						
7	コンコーネ22 コールユーブンゲンNo.37 新曲視唱第2章No.21~25 聴音 三声開離 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.38の予習をし、No.37の復習をする。 1h						
8	コンコーネ23 コールユーブンゲンNo.38 新曲視唱第2章No.31~35 聴音 三声開離 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.39の予習をし、No.38の復習をする。 1h						
9	コンコーネ24 コールユーブンゲンNo.39 新曲視唱第2章No.41~45 聴音 三声開離 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.40 No.41の予習をし、No.39の復習をする。 1h						
10	コンコーネ25 コールユーブンゲンNo.40 No.41 新曲視唱第2章No.51~55 聴音 到達度確認テスト (課題) コールユーブンゲンNo.42の予習をし、No.40 No.41の復習をする。 1h						
11	コンコーネ26 コールユーブンゲンNo.42 新曲視唱第2章No.61~65 聴音 四声密集 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.43を予習し、No.42の復習をする。 1h						
12	コンコーネ27 コールユーブンゲンNo.43 新曲視唱第2章No.71~75 聴音 四声密集 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.44を予習し、No.43を復習する。 1h						
13	コンコーネ28 コールユーブンゲンNo.44 新曲視唱第2章No.81~85 聴音 四声密集 複旋律 (課題) コールユーブンゲンNo.45を予習し、No.44を復習する。 1h						
14	コンコーネ29 コールユーブンゲンNo.45 新曲視唱第3章No.1~No.5 聴音 四声密集 複旋律 (課題) コールユーブンゲン1年のまとめ。 既習曲の復習をする。 1h						
15	コンコーネ30 到達度確認テスト 新曲視唱第3章No.11~No.13 (課題) コールユーブンゲン1年のまとめ。 既習曲の復習をする。 1h						
時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習を行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 この科目で求める望ましい授業外での総修学時間；15時間						
受講学生へのメッセージ	一回一回の授業がとても大切です。欠席しないように体調にも気を付けて下さい。 オフィスアワーは授業後教室にて。						

【3S8B114】音楽理論		音楽総合学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	小林 聡					
資格・制限等	MT・Wコース必修					
実務家教員	大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年					
授業方法	講義形式で進めます。小テストを行い反復学習によって理解度を深め、疑問点はICTなどを用いて解決していきます。講義によって得た知識により楽譜の分析を実施します。基礎知識の確認テストを行い理解度に合わせたクラス分けを行います。					
到達目標	知識・理解	音楽の基礎である楽典を学修し、記譜の決まり事を理解する。				
	思考・判断・表現	調判定など楽譜を読み取る力をつけ、楽曲の構造を分析できるようにする。				
	技能	移調の練習から様々な楽器の記譜法を身につける。				
	関心・意欲・態度	多くの楽譜に自ら取り組むことで対応力を高めると共に、楽譜を読む楽しさを知る。				
授業内容	楽典の基礎、楽譜の書式、音符、リズムと拍子、音程、音階、和音、記号について学びます。音楽大学の学生としての自覚を得るために必要な知識を学びます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	20	20	-	70
	小テスト	10	-	-	-	10
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	40	20	20	20	100
評価の特記事項	理解の達成度とそこへ到達しようという姿勢を重視します。					
ICT活用	学生ポータルによって疑問点への質問を受け付けます。					
アクティブ・ラーニングの活用	楽典の理解を応用した楽譜の分析（スキルの育成、高次の思考）					
課題に対するフィードバック	授業時間外課題及び試験に対する質問にコメントします。					
テキスト	『『新装版「楽典」理論と実習』』石桁真礼生、末吉保雄、丸田昭三、飯田隆、金光威和雄、飯沼信義 音楽之友社(2,145円) ISBN:9784276100008 『JAZZ THEORY WORKSHOP JAZZ理論講座 初級編』小山大宣 武蔵野音楽学院出版部(2,000円)					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	音の種類、楽音の3要素、倍音、音律について学びます。[課題(復習)]学んだことの復習：それぞれの用語をしっかりと覚えること、倍音を五線紙に書き出してみる。(4H)					
2	五線、音部記号、譜表、音名について学びます。[課題(復習)]学んだことの復習：音部記号の音の高さと音名を覚えること。(4H)					
3	音符と休符の種類と長さ、連符、タイについて学びます。[課題(復習)]学んだことの復習：音符と休符の種類を系統的に図に書いて把握すること。(4H)					
4	リズム、拍と拍子、拍子の記法、拍子に関する演奏上の注意について学びます。[課題(復習)]学んだことの復習：様々な拍子記号を実際に五線に書き出す。(4H)					
5	強起と弱起、拍の種類について学びます。[課題(復習)]学んだことの復習：強起と弱起それぞれの拍子を使いリズム譜を作る。(4H)					
6	複雑な拍子、特殊な拍子、拍子の变化、シンコペーション、リズムに関する記譜上の注意、音程(幹音どうしの音程)[課題(復習)]学んだことの復習：いくつかの調を選びその幹音どうしの2音の音程を書き出す。(4H)					
7	派生音を含む音程、複音程・音程の転回・協和音程と不協和音程、長音階について学びます。[課題(復習)]学んだことの復習：副音程・展開された音程・協和音程・不協和音程について例を書き出す。(4H)					
8	短音階、調、調の相互関係、移調と転調[課題(復習)]学んだことの復習：相互関係を表す図を書き出し理解する。長短24の音階を五線に書き出す。(4H)					
9	調の判定、教会旋法、全音音階、様々な音階[課題(復習)]学んだことの復習：調判定の原則の整理(4H)					
10	調判定、課題の実施と解説[課題(復習)]学んだことの復習：それぞれの音階を書き出しその構成音と名称を覚える。(4H)					
11	調判定、和音、3和音とその転回形[課題(復習)]各和音の構成音、展開形、その名称を表を用いて書き記す。(4H)					
12	調判定の復習、和音の基本形と転回形、サブドミナント[課題(復習)]各調においてそれぞれの和音の響きを実際に弾いて確かめる。(4H)					
13	非和声音、保続音、倚音、掛留音[課題(復習)]非和声音の整理(4H)					
14	非和声音、逸音と先取音、属9の和音、終止形[課題(復習)]非和声音の整理、各和音の構成音、展開形、その名称を表を用いて書き記す。(4H)					
15	調判定の復習、非和声音のまとめ[課題(復習)]各和音の構成音、展開形、その名称を表を用いて書き記す。(4H)					
時間外での学修	授業内容を確認し復習の課題を行なってください。覚える事柄が多いので何度も繰り返し書き記すことによって確かな知識にしましょう。【この科目で求める望ましい授業外で総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	音楽において楽譜は作曲家が自分の思考を演奏者に伝える言葉です。この言葉の用法をしっかりと理解し曲の内容を的確に把握できる力を身につけましょう。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。					

【3S8S115】音楽理論		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	小林 聡						
資格・制限等	MT・Wコース必修						
実務家教員	大学非常勤講師・20年、演奏家・37年、作編曲家・24年						
授業方法	講義形式で進めます。小テストを行い反復学習によって理解度を深め、疑問点はICTなどを用いて解決していきます。講義によって得た知識により楽譜の分析を実施します。						
到達目標	知識・理解	音楽の基礎である楽典を学修し、記譜の決まり事を理解する。音楽記号についての知識を深める。					
	思考・判断・表現	調判定など楽譜を読み取る力をつけ、楽曲の構造を分析できるようにする。					
	技能	移調の練習から様々な楽器の記譜法を身につける。					
	関心・意欲・態度	多くの楽譜に自ら取り組むことで対応力を高めると共に、楽譜を読む楽しさを知る。					
授業内容	楽典の基礎、楽譜の書式、音符、リズムと拍子、音程、音階、和音、記号について学びます。音楽理論Iに引き続いての内容ですが、課題の実習とその解説を主とします。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	20	-	70
	小テスト		10	-	-	-	10
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項	理解の達成度とそこへ到達しようという姿勢を重視します。						
ICT活用	学生ポータルによって疑問点への質問を受け付けます。						
アクティブ・ラーニングの活用	楽典の理解を応用した楽譜の分析（スキルの育成、高次の思考）						
課題に対するフィードバック	事業時間外課題及び試験に対する質問にコメントします。						
テキスト	『『新装版「楽典」理論と実習』』石桁真礼生、末吉保雄、丸田昭三、飯田隆、金光威和雄、飯沼信義 音楽之友社(2,145円) ISBN:9784276100008 『『JAZZ THEORY WORKSHOP JAZZ理論講座 初級編』』小山大宣 武蔵野音楽学院出版部(2,000円)						
参考書・教材							

内容	
実施回	授業内容・目標
1	速さ・強さに関する表示法、調判定、移調についての課題と復習 [課題(復習)]学んだことの復習:強さ、速さの記号をそれぞれの順番にならべて書き記し、用法を覚える。(4H)
2	速さ・強さに関する表示法、言葉による表示法、調判定、移調についての課題と復習 [課題(復習)]学んだことの復習:強さ、速さの記号をそれぞれの順番にならべて書き記し、用法を覚える。(4H)
3	曲想・奏法に関する表示法 奏法を指示する用語・記号(装飾音符・省略記号を除く) 装飾音・装飾記号 [課題(復習)]学んだことの復習:記号と奏法例を書き記し覚える。(4H)
4	略記法 略記号および簡略用語楽曲の形式 基礎楽式、1部形式、2部形式 [課題(復習)]学んだことの復習:装飾音と記号について奏法例を書き出し用法を覚える。(4H)
5	3部形式、複合3部形式 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4H)
6	複合3部形式 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4H)
7	ロンド形式 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4H)
8	ロンド形式 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4H)
9	ソナタ形式 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4H)
10	ソナタ形式 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4H)
11	ソナタ形式 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4H)
12	ソナタ形式 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4H)
13	コードネーム 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習:小テストで解らなかったことを調べる。(4H)

内容	
実施回	授業内容・目標
14	和音の展開、和音の機能 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習：小テストで解らなかったことを調べる。(4H)
15	コード進行 移調、調判定、答え合わせと解説[課題(復習)]学んだことの復習：小テストで解らなかったことを調べる。(4H)
時間外での学修	小テストで自分が理解していない事項を把握してひとつづつクリアしてください。移調、調判定は課題を実施することで作業自体に慣れ問題解決への道筋を作りましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	音楽理論IIでは得た知識をもとに楽譜に対し思考、判断する力を養います。最初は難しいと感じることも課題を行う過程で意識のハードルが下がってくることを目指して取り組んでください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。

【3S8B116】音楽史		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	P・Orコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。					
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。					
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。					
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	20	20	-	80
	ノートチェック		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項	曲の感想の描き方に、真摯な姿勢での取り組みが見られる場合は、評価に反映したいと思います。評価のフィードバックとしてレポートの総評を行います。						
ICT活用	オープンチャットを活用し、授業中に関する曲を提示します。						
アクティブ・ラーニングの活用	レポートにて、各自、興味を抱いた作曲家について、調べて、見解をまとめて頂きます。						
課題に対するフィードバック	毎回、授業に関する曲を数曲提示しますので、聞いた感想をノートに書いて下さい。それを元に、更に理解を深められるように、意見交換していきます。						
テキスト	『西洋音楽史概説』門馬直美 春秋社(3,024円) ISBN:978-4393930014						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	古代、中世の音楽 [課題(準備)]音楽史の本を読んでみましょう。(3~5h)						
2	ルネサンス音楽 [課題(予習)]モンテベルディ、パレストリーナを聴いてみましょう。(3~5h)						
3	バロック音楽 [課題(予習)]ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルを聴いてみましょう。(3~5h)						
4	クラシック音楽 [課題(予習)]モーツァルトを聴いてみましょう。(3~5h)						
5	クラシック音楽 [課題(予習)]ベートーヴェンを聴いてみましょう。(3~5h)						
6	ロマン主義音楽 [課題]メンデルスゾーン、シューベルトを聴いてみましょう。(3~5h)						
7	ロマン主義音楽 [課題(予習)]シューマン、ショパンを聴いてみましょう。(3~5h)						
8	第1回レポート [課題(準備)]興味・関心を持った作曲家、曲、時代について、調べてまとめましょう。。(3~5h)						
9	ロマン主義音楽 [課題(予習)]リストを聴いてみましょう。(3~5h)						
10	新ロマン主義音楽 [課題(予習)]ヴァーグナー、ブラームスを聴いてみましょう。(3~5h)						
11	フランス音楽 [課題(予習)]ビゼー、サンサーンスを聴いてみましょう。(3~5h)						
12	イタリア音楽 [課題(予習)]ヴェルディ、プッチーニを聴いてみましょう。(3~5h)						
13	イギリス音楽 [課題(予習)]エルガー、ホルストを聴いてみましょう。(3~5h)						
14	ウィーンの音楽 [課題(予習)]Jシュトラウスを聴いてみましょう。(3~5h)						
15	アメリカの音楽 [課題(予習)]フォスター、ガーシュウィンを聴いてみましょう。(3~5h)						
時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知ることが、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3S8S117】音楽史		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	P・Orコース必修						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業方法	講義形式で行います。自分に必要な音楽をたくさん聴きたい、感じたい、学びたいという姿勢で取り組んで欲しいので、ノートは、必ず、取っていただきます。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	音楽史の基礎的な知識を身に付け、人に伝えられるようになる。					
	思考・判断・表現	音楽分野全般への感性を高めるために、音楽の背景を知る。					
	技能	音楽史を学ぶ事により得た情報能力を、コミュニケーション能力に発展させる。					
	関心・意欲・態度	音楽史の知識を、演奏、音楽指導活動に活かせるようにする。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	音楽のルーツ、歴史、作曲家が生きた時代とその生涯について学びます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	20	20	-	80
	ノートチェック		-	-	-	10	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	20	20	20	100
評価の特記事項	曲の感想の描き方に、真摯な姿勢での取り組みが見られる場合は、評価に反映したいと思います。評価のフィードバックとしてレポートの総評を行います。						
ICT活用	オープンチャットを活用し、授業中に関する曲を提示します。						
アクティブ・ラーニングの活用	レポートにて、各自、興味を抱いた作曲家について、調べて、見解をまとめて頂きます。						
課題に対するフィードバック	毎回、授業に関する曲を数曲提示しますので、聞いた感想をノートに書いて下さい。それを元に、更に理解を深められるように、意見交換していきます						
テキスト	『西洋音楽史概説』門馬 直美 春秋社(3,024円) ISBN:978-4393930014 「音楽史」履修者は購入済						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ロシアの音楽 [課題(予習)]ロシア5人組、ムソルグスキーの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
2	ロシアの音楽 [課題(予習)]チャイコフスキーの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
3	ノルウェー、フィンランドの民族主義音楽 [課題(予習)]グリーグ・シベリウスの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
4	チェコスロヴァキアの音楽 [課題(予習)]スメタナ、ドヴォルザークの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
5	スペインの音楽 [課題(予習)]アルベニス、グラナドスの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
6	民族主義音楽のまとめ [課題(予習)]お気に入りの曲を見つけて聴いてみましょう。(3~5h)						
7	第3回レポート [課題(準備)]ノートチェックもしますので、忘れないようにしましょう。(3~5h)						
8	近代・現代の音楽 [課題(予習)]ドビュッシー・ラヴェルの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
9	近代・現代の音楽 [課題(予習)]シェーンベルク、ストラヴィンスキーの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
10	近代・現代の音楽 [課題(予習)]プロコフィエフ、バルトークの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
11	近代・現代の音楽 [課題(予習)]ハチャトゥーリアンの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
12	近代・現代の音楽 [課題(予習)]バレフスキーの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
13	近代・現代の音楽 [課題(予習)]バルトークの音楽を聴いてみましょう。(3~5h)						
14	日本の音楽 [課題(復習)]日本の音色にも、耳を傾けてみましょう。(3~5h)						
15	世界の音楽 [課題(復習)]インターネットを利用して、動画を見てみましょう。(3~5h)						
時間外での学修	興味をもった作曲家について調べたり、音楽を聴いたりしてください。図書館を有効利用するのも良いと思います。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	音楽を勉強していく上で、音楽史を知ることが、演奏力の向上にもつながると思います。積極的に受講してください。 一生懸命書いたノートは、大切な記録となると、思います。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。						

【3S3B203】鍵盤楽器		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員							
授業方法	鍵盤楽器(ピアノ)での一人一人の進度に合った選曲をし、個人レッスンを行います。自分のレッスン時間が来るまでの間とレッスン後授業終了時刻までは、各自練習室で課題及び練習曲などの予習復習をして待ちましょう。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	ピアノの基礎的な演奏技術や音楽知識を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得できる。					
	思考・判断・表現	演奏する曲に対する思考力と表現力を自ら考え培うことができる。					
	技能	コミュニケーションを取りながら専門的な技能の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	各専門分野に役立てていけるよう、意欲的に取り組むことができる。					
授業内容	ピアノを初めて演奏する学生も経験者も、個々に選曲した曲をどのように演奏したいかどんな音を奏でたいか一緒に考え取り組みながら、演奏力・表現力を高めていきます。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題の取り組み状況を含みます。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)						
アクティブ・ラーニングの活用	曲の選曲や課題の取り組み等を学生自ら判断できるよう促します。						
課題に対するフィードバック	課題の学修成果に対するコメントは、レッスンの際に随時伝えます。						
テキスト	教科書の指定はありません。						
参考書・教材	第1回の授業(ガイダンス)で1人ひとりの進度に合わせた選曲をしますので、次週までに楽譜を個々に用意してもらいます(コピーをしてもらうこともあり)。ピアノ経験者は、持っている楽譜をあらかじめ用意しておいてください。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス：授業の進め方の説明・次回からの練習曲をひとりひとり選曲 [課題(準備・予習)]練習する曲を選曲・譜読みを始める(1~1,5h)						
2	練習曲(1)課題の確認、譜読みを進める [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、譜読みが正しくできているか確認する(1~1,5h)						
3	練習曲(2)課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、テクニックの向上に努める(1~1,5h)						
4	練習曲(3)課題の確認、部分練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、部分練習を十分に行う(1~1,5h)						
5	練習曲(4)課題の確認、強弱の確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、強弱をつける(1~1,5h)						
6	練習曲(5)課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽語の意味などを調べて曲想をつける(1~1,5h)						
7	練習曲(6)課題の確認、フレージング [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、フレーズの確認をする(1~1,5h)						
8	練習曲(7)課題の確認、テンポの確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲にふさわしいテンポにする(1~1,5h)						
9	練習曲(8)課題の確認、音のバランス [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、音のバランスを考える(1~1,5h)						
10	練習曲(9)課題の確認、音色づくり [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音色をイメージして創り出す(1~1,5h)						
11	練習曲(10)課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、豊かな音楽表現を身に付ける(1~1,5h)						
12	練習曲(11)課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜に取りかかる(1~1,5h)						
13	練習曲(12)課題の確認、確実な暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜を確実にする(1~1,5h)						
14	練習曲(13)課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲の流れを止めずに演奏できるようにする(1~1,5h)						
15	練習曲(14)課題の確認、仕上げ・休暇中の練習曲選び [課題(復習)]レッスンの復習をし、何度も繰り返し練習する・休暇中の練習曲を選曲する(1~1,5h)						
時間外での学修	レッスンで習得したことを改善できるように日々の積み重ねが大切であるとともに様々な音楽に興味を持ち知識を得られるように心がけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：22時間】						
受講学生へのメッセージ	ピアノの演奏を通し各専門分野に役立てていけるよう、目標を持って取り組みましょう。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。						

【3S3S204】鍵盤楽器		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	野口 歩						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員							
授業方法	鍵盤楽器(ピアノ)での一人一人の進度に合った選曲をし、個人レッスンを行います。自分のレッスン時間が来るまでの間とレッスン後授業終了時刻までは、各自練習室で課題及び練習曲などの予習復習をして待ちましょう。質問等は授業時やメール等で受け付けます。						
到達目標	知識・理解	ピアノの基礎的な演奏技術や音楽知識を理解し、人に音楽を伝えるための知識を習得できる。					
	思考・判断・表現	演奏する曲に対する思考力と表現力を自ら考え培うことができる。					
	技能	コミュニケーションを取りながら専門的技術の向上に努めることができる。					
	関心・意欲・態度	各専門分野に役立てていけるよう、意欲的に取り組むことができる。					
授業内容	ピアノを初めて演奏する学生も経験者も、個々に選曲した曲をどのように演奏したいかどんな音を奏でたいか一緒に考え取り組みながら、演奏力・表現力を高めていきます。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		20	-	-	20	40
	合計(点)		20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は課題の取り組み状況を含みます。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Gmailなど)						
アクティブ・ラーニングの活用	曲の選曲や課題の取り組み等を学生自ら判断できるよう促します。						
課題に対するフィードバック	課題の学修成果に対するコメントは、レッスンの際に随時伝えます。						
テキスト	教科書の指定はありません						
参考書・教材	第1回の授業(ガイダンス)で1人ひとりの進度に合わせた選曲をしますので、次週までに楽譜を個々に用意してもらいます(コピーをしてもらうこともあり)。ピアノ経験者は、持っている楽譜をあらかじめ用意しておいてください。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の課題見直し・新しい練習曲の選曲 [課題(復習・準備)]休暇中の課題の見直しをする・次回からの練習曲を選曲(1~1.5h)						
2	練習曲(1) 課題の確認、譜読み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、譜読みを丁寧に行う(1~1.5h)						
3	練習曲(2) 課題の確認、片手奏・両手奏 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、両手奏がスムーズに進めるよう片手奏を十分に行う(1~1.5h)						
4	練習曲(3) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、テクニックの向上を図る(1~1.5h)						
5	練習曲(4) 課題の確認、反復練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、部分練習や反復練習をする(1~1.5h)						
6	練習曲(5) 課題の確認、強弱 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、強弱をつける(1~1.5h)						
7	練習曲(6) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲想をつける(1~1.5h)						
8	練習曲(7) 課題の確認、テンポの確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする(1~1.5h)						
9	練習曲(8) 課題の確認、音色づくり [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽曲に合った音色づくりをする(1~1.5h)						
10	練習曲(9) 課題の確認、バランス [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、響きのバランスを考える(1~1.5h)						
11	練習曲(10) 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜する(1~1.5h)						
12	練習曲(11) 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、暗譜を確実なものにできるよう練習を積む(1~1.5h)						
13	練習曲(12) 課題の確認、楽譜の再確認 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、楽譜の再確認をすることで曲への理解を深める(1~1.5h)						
14	練習曲(13) 課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、よく弾き込む(1~1.5h)						
15	練習曲(14) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)]レッスンの復習をし、これまでに習得した演奏技術や表現力を活かした演奏ができるようにする(1~1.5h)						
時間外での学修	レッスンで習得したことを改善できるように日々の積み重ねが大切であるとともに様々な音楽に興味を持ち知識を得られるように心がけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：2.2時間】						
受講学生へのメッセージ	ピアノの演奏を通し各専門分野に役立てていけるよう、目標を持って取り組みましょう。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施します。						

【3S8F221】スポーツ・レクリエーション		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	垣添 忠厚					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	垣添忠厚（特別支援学校教諭：18年、小学校教諭：5年、岐阜県レクリエーション協会理事、岐阜県キスポールスポーツ連盟副会長、レクリエーションインストラクター）					
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、養成課程認定校の過程に基づき、理論、実技、現場研修を行います。授業は主に体育館で実施します。					
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解し、実践することができる。				
	思考・判断・表現	保育者として、状況を把握し、主体的に活動することができる。				
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。				
	関心・意欲・態度	レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的理解と指導法について学びます。11月23日（日）は、岐阜県レクリエーションフェスティバルin岐阜（岐阜メモリアルセンター芝生広場）にスタッフとして参加する学外授業となります（詳細は授業時に説明します）。この科目は、レクリエーションインストラクター資格取得の必須科目です。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	レポート	15	-	-	-	15
	自己評価	15	-	-	-	15
	発表	-	20	20	-	40
	受講態度	-	-	-	30	30
合計(点)	30	20	20	30	100	
評価の特記事項	レポート、自己評価は毎回のレポートを基に評価します。実技は、イベントスタッフの実践の様子、イベント企画の発表を参考に評価します。受講態度は、毎時間の取り組みを評価します。					
ICT活用	日本レクリエーション協会公式ホームページ「レクぼ」を活用しレクリエーションの展開モデルを参考とする。					
アクティブ・ラーニングの活用	レクリエーションイベントに参加することで、現場での実践力を身につけます。					
課題に対するフィードバック	ボランティア参加によるレポートを学生で共有します。					
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益社団法人 日本レクリエーション協会 公益社団法人 日本レクリエーション協会(1,980円) ISBN:978-4-931180-95-6 『レクリエーション支援の方法 楽しさをとおした心の元気づくり 補助教材』公益社団法人 日本レクリエーション協会 公益財団法人 日本レクリエーション協会(880円)					
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	【10/1:A302】ガイダンス/理論(レク科目1): 楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気・レクリエーションインストラクターの役割 ・楽しさを通した心の元気づくりの理解 [課題(復習)] 心の元気づくりに大切な要素をレポートにまとめる。(1h~2h)					
2	【10/22:K101】実技(レク科目4): 良好な集団づくりの方法1 ・アイスブレイキングの効果を高める支援技術 [課題(予習)] アイスブレイキングの支援技術について理解し、レポートにまとめる。(1h~2h)					
3	【10/29:K101】実技(レク科目4): 自主的・主体的に楽しむ力を高める展開方法 ・アレンジの基本と応用(大道芸:ゲストティーチャー) [課題(復習)] 学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。					
4	【11/5:K101】実技(レク科目5): モデル・プログラムの習得1 ・レクリエーション支援のための制作(バルーンアート:ゲストティーチャー) [課題(復習)] 学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。					
5	【11/12:A302】理論(レク科目2): 心の元気と地域のきずな及び学外実習の説明 ・対象者のこころの元気づくりの理解 [課題(復習)] 学修した内容を振り返り、成果と課題をノートにまとめる。(1h~2h)					
6	【11/19:K101】実技(レク科目4): 良好な集団づくりの方法2 ・アイスブレイキングの目標設定 ・コミュニケーションワーク (ゲームを楽しむための方法:ミナレク広場の活動を想定して) [課題(予習)] 集団ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。(1h~2h)					
7	【11/26:A302】ボランティアの振り返り・演習(レク科目5)クリスマスイベント企画1(グループ作り、計画準備) ・レクリエーションイベントに参加しての振り返りから、イベントの運営について考える ・自主的、主体的にみんなで楽しめるイベント(レクリエーション大会)を考え、計画する [課題(予習)] 対象者に適したレクリエーションを提案できるよう考えをまとめる。(1h~2h)					
8	【12/3:K101】演習(レク科目5)クリスマスイベント企画2(企画準備・内容確認) ・仲間と協力して、分かりやすく楽しく活動できる計画に沿った準備をする。 [課題(復習・準備)] 企画の準備をし、ノートにまとめる。(1h~2h)					
9	【12/10:K101】実技:クリスマスイベント企画3 レクリエーション大会(発表前半)、まとめ、ノート(課題)の確認 [課題(復習)] クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。(1h~2h)					
10	【12/17:K101】実技:クリスマスイベント企画4 レクリエーション大会(発表後半)、まとめ、ノート(課題)の確認 [課題(復習)] クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。(1h~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
11	【11/23(学外授業)】現場実習(レク科目7)：岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクリエーション体験コーナー(スタッフとして)1 10/8休講分の補講 [課題(予習・準備)]自己の当日の日程や役割を理解し、持ち物等を準備しておく。(1h~2h)
12	【11/23(学外授業)】現場実習(レク科目7)：岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクリエーション体験コーナー(スタッフとして)2 10/15休講分の補講 [課題(復習)]学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)
13	【11/23(学外授業)】実技(レク科目2)：心の元気と地域のきずな 現場での演習 12/24休講分の補講 ・岐阜県レクリエーションフェスティバルのレクリエーション体験コーナーに参加する方々とのコミュニケーションを通して [課題(復習)]学外授業の内容をノートにまとめる。(1h~2h)
14	【11/23(学外授業)】実技(レク科目5)：モデル・プログラムの習得2 現場での演習 1/7休講分の補講 ・レクリエーションフェスティバルのレクリエーションブース(集団ゲーム)を体験する。 [課題(復習)]学修内容を振り返り、成果と課題をレポートにまとめる。
15	【1/14:A302】理論(レク科目6)：リスクマネジメント ・参加者が安全に楽しく参加できるイベントのあり方について考える [課題(復習)]ボランティアの参加を通して、具体的な方法をレポートにまとめる。
時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること(参加手続きが必要な場合が有ります)。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15~30時間】
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう意欲的に取り組んでください。 安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。 オフィスアワーは研究室(H203:H号館2F)で毎週火曜日12:15~12:45です。

【3T7B101】音楽心理学		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践・30年						
授業方法	演習を含む講義形式						
到達目標	知識・理解	音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけている。					
	思考・判断・表現	音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。					
	技能	音楽心理学で用いられる質問紙の点数計算ができる。					
	関心・意欲・態度	積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができる。					
	備考	・ ・ は、D P ・到達指標との結びつきの強さを示します。					
授業内容	音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法資格の取得にはこの授業が必修となっています。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	20	-	-	60
	課題提出		-	-	10	10	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		40	20	10	30	100
評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	授業の感想、課題提出をGoogleフォームを利用して行います。						
課題に対するフィードバック	授業内に取り入れる形で提出された高評価のレポートを紹介しします。						
テキスト	授業内でプリントを配布する。						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音楽心理学とは 実験1：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較 [課題(復習)]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、メンタルテンポについてまとめる(4h)						
2	メンタルテンポと好みのテンポの関連について 実験2：ゲシュタルト原理と音の群化について [課題(復習)]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、ゲシュタルトについて理解する(4h)						
3	リズム知覚能力の発達 実験3：調の色彩的表象 [課題(復習)]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、色彩と音との印象の関係についてまとめる(4h)						
4	共感覚について 実験4：楽器の音色による色彩的表象(12色以上の色鉛筆を持参してください)集団活動、発表 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、音色と色の関係についてまとめる(4h)						
5	絶対音感と相対音感について 実験5：絶対音感テスト 音楽心理学の研究手法について(1)観察法(2)実験法(3)質問紙法 それぞれの特長と適した研究法について[課題(復習)]学んだ内容を復習し、心理学研究の手法について理解する。自分の持つ音感の特性について理解する(4h)						
6	音による感情伝達 実験6：打楽器による感情表現 集団活動、発表 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、リズムの違いによる感情表現について理解する(4h)						
7	BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [課題(復習)]身近な環境にあるBGMについて調べレポートにまとめる(4h)						
8	音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [準備・課題]知っているCMソングについて調べレポートにまとめる(4h)						
9	音楽心理学で用いる心理尺度について AVSM、STAI 集団活動 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、心理尺度の計算について理解する(4h)						
10	音楽聴取に関する研究1：感情の神経・生理学的測定について [課題(復習)]学んだ内容を復習し、音楽に対する生理的反応について理解する(4h)						
11	音楽聴取に関する研究2：刺激間要因を問題として [課題(復習)]学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する(4h)						
12	音楽聴取に関する研究3：聴取者間要因を問題として [課題(復習)]学んだ内容を復習し、聴取者の性格特性による感情反応の違いについて理解する(4h)						
13	演奏不安に関する研究について 討論、発表 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、演奏反応の克服のための方法についてまとめる(4h)						
14	最近のトピックス 脳研究と音楽認知、テスト前の振り返り [課題(復習)]学んだ内容を復習し、理解を深める(4h)						
15	授業全体の振り返り 期末テスト						

時間外での学修	プリントをみて学んだことを復習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参加してください。 心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週火曜日の13：00～14：30です。

【3T7S102】教育原理		音楽総合学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	小椋 博文						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	高等学校管理職・10年						
授業方法	講義を中心としますが、ペアワークやグループワークも取り入れながら展開します。また、プレゼンテーションの作成及び発表、レポートの作成等を通じて、知識の習得だけでなく、教育や保育に対する自分の考えの形成を目指します。						
到達目標	知識・理解	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想、教育に関する社会的、制度的または経営的事項について理解することができる。					
	思考・判断・表現	教育について学んだ様々な内容について、自分の考えをまとめることができる。					
	技能	他者の意見に傾聴し理解するとともに、他者の意見も踏まえて自分の考えや意見を伝えることができる。					
	関心・意欲・態度	教育・保育に対して、関心・意欲を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	教育という営みの基本原則などについて理解するとともに、今後学ぶ専門分野への道筋を明らかにすることを目的とし、教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性、教育の思想と歴史の変遷、教育の制度、教育の多様な実践、社会教育の現状や生涯学習社会の課題と施策等について理解することを目指します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験		50	-	-	-	50
	プレゼンテーション		-	10	10	-	20
	課題レポート		-	10	10	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		50	20	20	10	100	
評価の特記事項	評価の対象となるのは、定期試験、プレゼンテーション、課題レポート、ワークシートです。全授業の3分の1以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションの作成及び発表						
課題に対するフィードバック	ワークシート（ファイル）は評価後返却します。						
テキスト	『【シリーズ知のゆりかご】 いまがわかる教育原理』西本 望 編 みらい(2,310円)ISBN:978-4-86015-450-9						
参考書・教材	『幼稚園教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年、『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	教育の意義 [課題（予習）] 第1章(P14～P25)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
2	教育の目的 [課題（予習）] 第2章(P26～P37)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
3	教育と児童福祉のつながり [課題（予習）] 第3章(P38～P47)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
4	人間形成と家庭・地域・社会 [課題（予習）] 第4章(P48～P59)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
5	近代教育成立の歴史とさまざまな国の教育思想家たち [課題（予習）] 第5章(P60～P65)、第6章(P72～P83)、第8章(P100～P113)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
6	日本の教育思想と歴史 [課題（予習）] 第7章(P84～P99)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
7	教育制度の基礎 [課題（予習）] 第5章(P65～P68)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
8	諸外国の教育制度 [課題（復習）] プレゼンの作成及び発表準備(2～4h)						
9	教育の方法 [課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
10	諸外国の教育制度 [課題（復習）] 各グループの発表をまとめる(2～4h)						
11	教育の内容／保育・教育実践の基礎理論 [課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
12	教育実践の多様な取り組み [課題（予習）] 第12章(P160～P175)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
13	教育実践の多様な取り組み [課題（復習）] それぞれの教育実践についてポイントをまとめ、レポートを作成する。(2～4h)						
14	社会教育の現状と生涯学習社会の課題と施策 [課題（予習）] 第13章(P176～P189)を通読する。[課題（復習）] 学びを振り返りまとめる。(2～4h)						
15	定期試験						

時間外での学修	講義の内容理解を深めるために、予習としてテキストを読んでください。また、授業で使用したワークシートを使って復習をしてください。また、レポート作成の際には、図書館の書籍やインターネット等を活用して情報収集してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	質問等のある人は、オフィスアワーとして授業後A304(A号館3F)で受け付けますので気軽に訪ねてください。

【3T7S103】発達心理学		音楽総合学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	茂木 七香					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	病院臨床心理士6年、学生相談室臨床心理士12年					
授業方法	基本的には講義形式で進めます。授業の内容に応じて、課題に取り組む、自分自身について振り返って記述する、グループワークに参加するなど、能動的な学び（アクティブラーニング）を前提とした方法も取り入れます。					
到達目標	知識・理解	全ての年齢の人を「対象」として捉え、その人の背景にある発達段階や発達課題に関する基礎的な知識を理解することができる。				
	思考・判断・表現	目の前の相手の行為や表出を相手の発達段階や理解度を考慮して多角的に分析し、判断する視点を持つことができる。				
	技能	相手を理解し、現在の発達段階の特性に合ったコミュニケーションを行うための技能を身につける。				
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自らの学びを深め、自己理解や他者理解に努める。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	生まれてから現在まであなたの心と身体は様々な面で発達してきましたが、この後はどうなるのでしょうか？「発達」というと赤ちゃんから大人になるまでの期間がクローズアップされがちですが、その後も人は死ぬまで発達します。この授業では人を「生涯発達心理学」の視点で捉え、各発達段階の特徴や個体としての変化、他者や社会との関わりなどを心理面を中心に学びます。今まで過ごしてきた発達段階（胎児期～青年期）については自分自身を振り返りながら、そしてこの先のまだ経験していない発達段階（成人期～老年期）から人生の終わりまでについては身近な人を手掛かりにしながら人の発達を概観します。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	授業時間内課題	15	10	-	10	35
	授業時間外課題	10	10	-	15	35
	小レポート	-	-	5	-	5
	最終レポート	5	5	5	-	15
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	30	25	10	35	100	
評価の特記事項	授業時間内課題：授業中に記入し提出するワークシートやミニツッペーパー 授業時間外課題：時間外に取り組み次回授業で提出する課題 レポート：ルーブリック（評価基準）とともに課題内容を提示					
ICT活用	学修内容の理解度確認や受講生間の意見交流のためにクラウドサービスsli.doやGoogleフォームなどを使用します。					
アクティブラーニングの活用	sli.doによる発言、グループワーク、意見交流など。					
課題に対するフィードバック	ミニツッペーパー、授業時間外課題やレポートへのコメントを返します。					
テキスト	『発達心理学15講』高橋一公・中川佳子編著 北大路書房(2,200円) ISBN:978-4-7628-3057-0					
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要項 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 補足資料を授業で配付します。その他、参考図書や関連動画などは授業中に適宜紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	はじめに（シラバス説明、文章の書き方、Slidoの使い方） 第1部：発達心理学の基礎と理論 第1講：発達心理学の基礎 [課題(復習)]教科書第1講（P1～P16）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
2	第2講：発達心理学の理論 1節：学習理論からみた発達 [課題(復習)]第2講（P17～P23）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
3	第2講：発達心理学の理論 2節：認知発達理論 3節：社会的関係の中での発達理論 第3講：発達心理学の理論 [課題(復習)]第2講～第3講（P24～P42）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
4	第2部：発生から第二次性徴までの変化 第4講：胎生期から新生児期まで [課題(復習)]第4講（P43～54）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
5	第5講：乳児期の発達 [課題(復習)]第5講（P55～P66）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
6	第6講：幼児期の機能と発達 第7講：幼児期の社会性 [課題(復習)]第6講・第7講（P67～P89）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
7	第8講：児童期の発達 [課題(復習)]第8講（P90～P99）の復習、小レポート作成の準備（2～4h）					
8	1～7回目の復習 図書館活用授業（子どもの発達を絵本から読み取る） [課題(復習)]自分の選んだ絵本を用いて小レポートを作成する（4～6h）					
9	第3部：疾風怒濤の時代 青年期から成人期前期 第10講：青年期の特徴と自我同一性の獲得 [課題(復習)]第10講（P116～P126）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
10	第11講：青年期から成人期へ [課題(復習)]第11講（P127～P139）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
11	第12講：青年期以降のメンタルヘルスと精神保健 [課題(復習)]第12講（P140～P150）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
12	第4部：喪失の時代から超越へ 第13講：中年期の発達と危機 [課題(復習)]第13講（P151～P162）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
13	第14講：エイジングと心理的变化 [課題(復習)]第14講（P163～P176）の復習、授業で指定する課題（2～4h）					
14	第15講：「死」への対応 [課題(復習)]第15講（P177～P188）の復習、最終レポート作成の準備（2～4h）					
15	まとめ レポートテーマの交流 最終レポート作成のためのワーク [課題(復習)]最終レポートの作成（4～6h）					

時間外での学修	<p>毎回の授業時間外課題や小レポートにしっかり取り組んでください。次回授業で用いることもあります(反転授業)。授業で学んだ後には「あなたも周りの人も様々な面で発達しながらこれまでの人生を過ごしてきた今この瞬間にも発達しているのだ」ということを意識して、世の中を新たな視点で捉え直してみてください。</p> <p>【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>発達心理学はあなたが今まさに生きている人生の過程についての学問です。当事者として楽しむ視点と学問として学ぶ視点の両方を持って受講すると、より深く学ぶことができます。 オフィスアワー：金曜日の12時10分～13時（A306研究室）、授業時間の前後（講義室）</p>

【3T7S105】子どもの保健		音楽総合学科		1年前期	
		2単位	選択	講義	30時間
教員	浅井 佳士・岩瀬 桃子				
資格・制限等	特になし				
実務家教員	浅井：病院看護師5年以上 岩瀬：病院看護師5年以上				
授業方法	テキストと配布資料等の教材を用いた講義を中心に進めていきます。				
到達目標	知識・理解	子どもの成長・発達、母子保健活動と施策、子どもの病気について、基本的な知識を理解できる			
	思考・判断・表現	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策の関連性を考え、子どもの健康を守るための取り組みと課題について考えを述べるができる			
	技能	関連する資料から子どもの保健に関する現状や課題について説明できる			
	関心・意欲・態度	子どもの成長・発達と母子保健活動・施策について関心を持ち、積極的・主体的に学修に取り組むことができる			
	備考	○ の記号は、DP・到達目標と結びつきの強さを示しています。			

授業内容 子どもの保健は、子どもの心と体の健康について考え、子どもの健康を守り、健やかな育ちを支えることについて学科目です。取り巻く環境からの影響を受けながら成長する子どもたちの特徴を理解するとともに、子どもの身体的成長や機能的発達、母子保健活動と施策、子どもと病気について学びます。

観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	小テスト	60	20	-	-	80
	レポート	-	5	5	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	60	25	5	10	100

評価の特記事項	教科書および講義内容を中心に知識の修得度の小テストまたはレポートで評価します。
ICT活用	
アクティブ・ラーニングの活用	講義の中で双方向のディスカッションを行う。
課題に対するフィードバック	小テストまたはレポートは、次回の授業でフィードバックします。
テキスト	『新基本保育シリーズ「子どもの保健」』松田博雄、金森三枝 中央法規(2,200円)
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。

内容	
実施回	授業内容・目標
1 浅井	ガイダンス、子どもの健康と保育(子どもとは、大人とは、養護と教育、保育における活動の場) [課題(予習)]テキスト第1講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
2 浅井	子どもの健康概念と健康指標 [課題(予習)]テキスト第2講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
3 浅井	子どもの健康と母子保健施策 [課題(予習)]テキスト第3講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
4 浅井	地域保健活動と児童虐待の防止 [課題(予習)]テキスト第4講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
5 浅井	子どもの成長と発達 [課題(予習)]テキスト第5講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
6 浅井	生理機能の発達と保健 [課題(予習)]テキスト第1講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
7 浅井	健康状態の観察、子どもによくみられる症状 [課題(予習)]テキスト第7講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
8 浅井	発育・発達 [課題(予習)]テキスト第8講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
9 浅井	子どもと病気(子どもの病気の理解、病気が子どもと家族に及ぼす影響) [課題(予習)]テキスト第9講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
10 岩瀬	新生児の病気、先天性の病気の子どもと家族への対応 [課題(予習)]テキスト第10講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
11 岩瀬	循環器、呼吸器、消化器系の疾患をもつ子どもと家族への対応 [課題(予習)]テキスト第11講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
12 岩瀬	ネフローゼ症候群、糖尿病の子どもと家族への対応 [課題(予習)]テキスト第12講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
13 岩瀬	脳性麻痺、てんかんのある子どもと家族への対応 [課題(予習)]テキスト第13講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
14 岩瀬	ウイルス感染症(麻疹、風疹、水痘、耳下腺炎)の子どもと家族への対応 [課題(予習)]テキスト第14講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)
15 浅井	病気の予防と予防接種 [課題(予習)]テキスト第15講を通読する(2h) [課題(復習)]学びを振り返りまとめる(2h)

時間外での学修 毎回の授業時間外課題にしっかりと取り組んでください。そして理解につなげましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】

受講学生へのメッセージ 日頃から子どもに関するニュースや出来事に関心を持ち、日常生活で接する子どもの様子を意図的に観察して下さい。オフィスアワーは担当教員が授業で説明します。

【3T7B208】音楽療法演習		音楽総合学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	日比 あけみ					
資格・制限等	MTコース必修					
実務家教員	福祉および医療現場にて音楽療法実践20年					
授業方法	学内での演習、発表。実践形式で行います。					
到達目標	知識・理解	対象者理解、アセスメントができる。				
	思考・判断・表現	音楽の使い方が理解できる。				
	技能	音楽活動の計画・実践ができる。				
	関心・意欲・態度	模擬セッションで各役割を担当できる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	対象者に合わせた音楽活動の計画・実践・振り返りを模擬実践にて行います。実際の現場に立つ前に、基礎的な実践方法を身につけます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実践発表	10	10	20	10	50
	受講態度	-	10	-	10	20
	レポート	-	-	10	10	20
	期末試験	10	-	-	-	10
合計(点)	20	20	30	30	100	
評価の特記事項	ICT活用					
アクティブ・ラーニングの活用	障がい者や高齢者の日常生活における情報収集					
課題に対するフィードバック	課題やレポートにコメントを返します。					
テキスト						
参考書・教材	資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション(年間計画・課題の確認) [課題(準備)]目標設定1(1~3h)					
2	グループ発表準備 [課題(準備)]計画、役割分担、練習(1~3h)					
3	グループ発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)					
4	グループ発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)					
5	グループ発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)					
6	グループ発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)					
7	グループ発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)					
8	グループ発表評価、個人発表準備 [課題(準備)]自己評価、目標設定2、計画、練習(1~3h)					
9	個人発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)					
10	個人発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)					
11	個人発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)					
12	個人発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)					
13	個人発表 [課題(準備・復習)]計画、実践、振り返り(1~3h)					
14	個人発表評価 [課題(準備・復習)]自己評価、目標設定3(1~3h)					
15	演習のまとめ [課題(準備)]期末試験の取り組み(1~3h)					
時間外での学修	模擬実践を行うにあたり、授業外での準備は必須です。使用曲に関する調査や練習は、事前に各自で進めてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	どのようにしたら相手と自分との関係作りがうまくいくのか、日常生活の中からも気付きを見つけてください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。					

【3T7B111】音楽療法・基礎		音楽総合学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践30年						
授業方法	講義形式ですが授業の一部で演習活動も含まれます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。					
	思考・判断・表現	ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。 対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。					
	技能	音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。					
	関心・意欲・態度	意欲的に発表する。他グループの発表について自分の意見を述べることができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶこと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨床的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	30	-	-	70
	発表		-	10	10	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 課題の提出及び発表がない学生は期末試験の受験資格がありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	課題や感想をGoogle Formで提出します。						
課題に対するフィードバック	よいレポートがあれば授業で取り上げます。						
テキスト	『標準 音楽療法入門 下 実践編』日野原 重明 (監修)、篠田 知璋 (編集)、加藤 美知子 (編集) 春秋社(3,520円) ISBN: 4393934482						
参考書・教材							

内容	
実施回	授業内容・目標
1	オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習、レポート提出 [課題(復習)]学んだ内容を復習し音楽療法の手順について理解する(4h)
2	アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習、レポート提出 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、ランニングアセスメントの役割について理解する(4h)
3	行動観察について：アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、アセスメントの種類について理解する(4h)
4	音楽活動の記録について：客観的な記述方法について。反応のあった音楽、視線、セラピストとのかかわりなどについて主観を交えずに描写することができる。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、客観的な記述について理解する(4h)
5	音楽活動やセラピストの働きかけが対象者にどのように受け止められたか、対象者の感情を押し量って記述し、次回からのセッションの活動で何を言い、どこを変えなければならないか自分の考えを記述できる。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、主観的な記述と客観的な記述を分けて記述する(4h)
6	目標設定について：対象者の分野別に異なる目標があることを知る。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、分野別の目標と活動内容についてレポートを作成する(4h)
7	長期目標と短期目標について：それぞれの目標の違いを知り、短期目標の立て方を学ぶ。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、長期目標に対応した短期目標を含む音楽活動を考える(4h)
8	目標に応じた音楽活動の計画1：「動きを促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、音楽活動の発表に向けて練習する(4h)
9	目標に応じた音楽活動の計画2：「社会性を促す音楽活動」活動を計画する。活動を発表する。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、社会性と音楽活動の関連について理解する(4h)
10	目標に応じた音楽活動の計画3：「コミュニケーションを促す音楽活動」音楽活動を計画する。活動を発表する。[課題(復習)]学んだ内容を復習し、コミュニケーション能力と音楽活動の関連について理解する(4h)
11	事例から目標と活動を設定する演習1：児童 児童の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、児童の音楽活動に使用する曲を練習する(4h)
12	事例から目標と活動を設定する演習2：成人 成人の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、成人の音楽活動に使用する曲を練習する(4h)
13	事例から目標と活動を設定する演習3：高齢者 高齢者の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、高齢者の音楽活動に使用する曲を練習する(4h)
14	この授業のレポート課題内容を説明する。 [課題(復習)]レポート課題に取り組む(4h)

内容	
実施回	授業内容・目標
15	レポート課題の作成 レポート課題を作成、完成させる。 [課題(復習)]学んだ内容の復習(4h)
時間外での学修	教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。 課題の提出状況が評価に含まれます。 オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週火曜日の13:00~14:30です。

【3T7B214】音楽療法実践		音楽総合学科		1年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	菅田 文子					
資格・制限等	MTコース必修					
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践・30年					
授業方法	学内の演習。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。					
到達目標	知識・理解	簡単な和音奏の編曲ができる。簡単な打楽器の編曲ができる。				
	思考・判断・表現	施設における音楽活動を適切に振り返り記録することができる。				
	技能	ギターオープンコードを用いて弾き歌いができる。				
	関心・意欲・態度	時間外での自習を意欲的に行い、課題を発表できる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	音楽療法の現場への見学参加を主に行い、現場での適切な行動を学ぶ。ギターのオープンコードを学び、弾き歌いができるようにする。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	レポート	-	40	-	-	40
	実技試験	-	-	40	-	40
	発表(グループ発表含む)	10	-	-	5	15
	受講態度	-	-	-	5	5
合計(点)	10	40	40	10	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。					
ICT活用						
アクティブ・ラーニングの活用	反転授業により事前にビデオ視聴を行い授業に臨む(ギターコードの予習)。					
課題に対するフィードバック	レポートのコメントを次の授業時に返します。					
テキスト						
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。ギターはアコースティックギター(スチール弦)をピックで弾く形が望ましいので購入を検討するならば参考にしてください。学内専用(学外持ち出し不可)のギターで練習することが可能です。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表(課題6曲) [課題(復習)]残りの課題5曲の練習(1h)					
2	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表(課題5曲) [課題(復習)]残りの課題6曲の練習(1h)					
3	コードの基礎、3和音で演奏できる曲の発表(課題6曲) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)					
4	ミュージックベルのアンサンブル(長調の - - -) [課題(復習)]長調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。(1h)					
5	ミュージックベルのアンサンブル(短調の - - -) 宿題の発表。1人でグループを指揮する。わかりやすい合図の出し方を学ぶ。[課題(復習)]短調3和音の既成曲を1曲探し譜面を作成、指揮の練習をする。実習施設について調べる(1h)					
6	簡単なリズム楽器によるアンサンブル 2つのグループに分け、小物楽器のアンサンブルを行う。 [課題(復習)]自分で1曲を選び小物楽器アンサンブルのための譜面を作成する(1h)					
7	ギター各部の名称、メンテナンスについて ダイアグラムの読み方、チューニングとオープンコード Em、E [課題(復習)]学んだ内容の復習、課題曲の練習、A、A7、D、D7コードの予習(1h)					
8	オープンコード A、A7、D、D7 [課題(復習)]学んだ内容の復習、課題曲の練習、G、G7コードの予習(1h)					
9	オープンコード G、G7 [課題(復習)]学んだ内容の復習、課題曲の練習、C、C7コードの予習(1h)					
10	オープンコード C、C7 [課題(復習)]学んだ内容の復習、課題曲の練習、Fコードの予習(1h)					
11	オープンコード F/アルペジオ [課題(復習)]学んだ内容の復習、試験課題曲の選定(1h)					
12	試験の準備 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題(復習)]学んだ内容の復習、ゆっくりと止まらずに演奏できるようにする(1h)					
13	試験の準備 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題(復習)]学んだ内容の復習、テンポを上げて演奏できるようにする(1h)					
14	試験の準備 自分で弾ける曲を選び指導を受ける [課題(復習)]学んだ内容の復習、弾き歌いのために声と演奏のバランスに気をつける(1h)					
15	実技試験(ギター弾き歌い)後期課題の説明 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)					
時間外での学修	アンサンブルの発表はグループで行いますので、協調性を持って課題に取り組んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】					
受講学生へのメッセージ	ギター(クラシック、フォークどちらでも可)は各自用意してください。学校のギターは学内でのみの練習に貸し出しします。オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週火曜日の13:00~14:30です。					

【3T7S215】音楽療法実践		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	MTコース必修						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年、音楽療法実践・30年						
授業方法	学内の演習と学外における実践。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	対象者グループの目標に沿った音楽活動を計画することができる。					
	思考・判断・表現	グループに分かれて音楽療法活動を計画、実践、記録を取ることができる。					
	技能	高齢者と児童の現場でグループ音楽活動を実施することができる。					
	関心・意欲・態度	それぞれの施設でふさわしい振る舞いをする事ができる。グループ内で共同作業ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	福祉施設におけるボランティア活動を通じて対象者への接し方や適切な行動を身につけることを目標とします。人前に出て話すこと、指導することにも慣れることができるように、役割を交代で分担します。グループ内で共同作業を行う上でのコミュニケーション能力を高めることも目的としています。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		-	30	-	-	30
	受講態度		-	-	20	20	40
	発表(グループ発表含む)		10	-	10	10	30
	合計(点)		10	30	30	30	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は最終試験の受験資格がありません。施設実習に3回出ますが2回以上欠席した学生、実習レポートの提出のない学生は最終試験の受験資格がありません。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	課題の提出をGoogle Formで行います。必要に応じて反転授業(実技の事前学習)を行います。						
課題に対するフィードバック	レポートについてのコメントを授業内で行います。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 高齢者を対象とした音楽療法セッション1:対象者の説明、施設の概要など。対象者にあった選曲を行う。 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動で使用する高齢者に向けた曲の譜面を準備する(1h)						
2	高齢者を対象とした音楽療法セッション2:活動計画 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動の高齢者に向けた曲を練習する(1h)						
3	高齢者を対象とした音楽療法セッション3:活動の準備 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、高齢者対象の目標設定に沿った提示を練習する(1h)						
4	高齢者を対象とした音楽療法セッション4:リハーサル [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動の説明や流れを確認する。高齢者施設での活動の留意点を復習する(1h)						
5	高齢者を対象とした音楽療法セッション5:実践 [課題(復習)]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。高齢者への働きかけで気づけた点についてふりかえる(1h)						
6	先週の振り返り クリスマスコンサートのレポーター1 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲の譜面を準備する(1h)						
7	クリスマスコンサートのレポーター2 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動のクリスマスに関連する曲を練習する(1h)						
8	障害者を対象とした音楽活動準備 [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者を対象とした目標設定に沿った提示を練習する(1h)						
9	障害者施設に向いての音楽活動ボランティア1 [課題(復習)]実践記録の記入、障害者に対する接し方、働きかけについて記録(1h)						
10	先週の振り返り、記録の提出、活動計画の作成 [課題(復習)]学んだ内容の復習、今回の活動の反省点を踏まえた活動計画の作成(1h)						
11	障害者施設へのボランティア活動リハーサル [課題(復習)]学んだ内容の復習、担当する活動の曲の声かけ、障害者に対する音楽療法の目標設定に沿った提示方法について各自で練習する(1h)						
12	障害者施設へのボランティア活動2 [課題(復習)]実践記録を記入する。自分の行った活動への対象者の反応を記録する。表情、視線や発声について記録できるようにする(1h)						
13	先週の振り返り、記録の提出 [課題(復習)]学んだ内容の復習、他の学生の振り返りも参考にする(1h)						
14	音楽活動以外のレクリエーション技術 [課題(復習)]学んだ内容の復習、自分でできる音楽活動以外のレクリエーションについてまとめる(1h)						
15	授業のまとめ、レポート課題について [課題(復習)]学んだ内容の復習、レポートを作成、完成させる(1h)						

時間外での学修	自分が担当する活動は自分で責任を持って時間外に準備してください。授業時間は計画や合わせるためのリハーサルに使用します。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	多少の失敗は恐れず、積極的に学ぶ姿勢で対象者に接してください。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週火曜日の13：00～14：30です。

【3S5B213】専攻楽器		音楽総合学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	森岡 佐和						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	オーケストラ25年						
授業方法	個人レッスン 伴奏なし						
到達目標	技能	楽譜に忠実な演奏ができた上で、表現力豊かな演奏ができる					
	関心・意欲・態度	授業時間外での練習を積極的に行うことができる ○					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	個々の能力に見合った楽曲を選び、その上で譜読みを正確に行い、個々の感性を音楽に表現できるようにレッスンを進めます						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	70	-	70
	受講態度等		-	-	-	30	30
	合計(点)		-	-	70	30	100
評価の特記事項							
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	活用なし						
課題に対するフィードバック	レッスンにおいて指摘した箇所が修正されているかを次回レッスンでチェック						
テキスト							
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、楽曲の選び方、練習法、レッスンに臨む姿勢などの説明 【課題（復習・予習）】配布プリントを熟読した上で楽曲を調べる(1h)						
2	個人レッスンにて、個々の前期の目標を定め楽曲を決定する 【課題（復習）】楽曲候補を絞る(1h) 予習：決めた楽曲の練習(1h)						
3~15	前期に取り組む楽曲を、個々の進捗状況を見極めながらレッスンを進め、問題点を指摘 【課題（復習）】レッスンで指摘を受けた箇所を復習(1h) 予習：楽曲継続練習(1h)						
時間外での学修	レッスン時に指摘を受けた箇所の復習、次回レッスンに向けての予習を行ってください 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：29時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスンで指摘を受けたことに関して不明な点などがある場合は、必ず質問してください。オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。						

【3S5S214】専攻楽器		音楽総合学科		1年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	森岡 佐和						
資格・制限等	Wコース必修						
実務家教員	オーケストラ25年						
授業方法	個人レッスン 伴奏有り(実技試験)						
到達目標	技能	楽譜に忠実な演奏ができた上で、表現直豊かな演奏ができる					
	関心・意欲・態度	授業時間外での練習を積極的に行うことができる ○					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	前期よりレベルアップした楽曲を決め、譜読みを正確に行い、個々の感性を音楽に表現できるようレッスンを進めます						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	70	-	70
	受講態度等		-	-	-	30	30
	合計(点)		-	-	70	30	100
評価の特記事項							
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	活用なし						
課題に対するフィードバック	レッスンにおいて指摘された箇所が修正されているかを次回レッスンでチェック						
テキスト							
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	個人レッスンにて後期の目標を定め楽曲を決定する 【課題(予習)】楽曲候補を絞る(1h)						
2~15	後期に取り組む楽曲を、個々の進捗状況を見極めながらレッスンを進め、問題点を指摘 【課題(復習)】レッスンで指摘を受けた箇所を復習(1h) (予習)楽曲継続練習(1h)						
時間外での学修	レッスン時に指摘を受けた箇所の復習、次回に向けての予習を行ってください 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：29時間】						
受講学生へのメッセージ	レッスンで指摘を受けたことに関して不明な点などがある場合は、必ず質問してください。オフィスアワーは、講義終了後、各教室で行います。その他、B204研究室にも気軽に相談に来てください。						